

第9回教育委員会協議会

次第

1 開催日時 平成30年3月16日(金) 18:00~20:30

2 場 所 高知共済会館 3階「桜」

3 内 容
17:30~ 受 付

18:00~ 開 会

議 題

(1) 第8回教育委員会協議会での協議内容のまとめ

(2) 県立高等学校の地域別配置状況について

(3) 地域別の県立中学校・高等学校の在り方の方向性について
ア 東部地域

イ 北部地域

ウ 中部地域①

閉 会

県立高等学校再編振興計画の「後期実施計画」策定に関する全体の方向性

【第7回教育委員会協議会での協議・確認事項】

1 本校の最低規模について

「原則、1学年2学級以上」、「特例として1学年1学級20人以上」の最低規模の基準については、策定までの協議内容を踏まえると、基準としては尊重すべきであるが、この数字だけにとられることなく、検討していくべきである。

〔具体の意見〕

- ア 各地域（ブロック）の中で、現状の学校の配置についてその内容（進学拠点校や不登校や発達障害のある生徒等への対応校など）も含めて確認し、バランスのとれた学校配置を検討したうえで、最低規模を下回った学校についてどうするかを議論すべきである。
- イ 継続する場合は、「20人を確保するためにはどうするのか」や「20人を下回った場合は、ICTの活用や他校との連携も含めてどのように高校教育としての教育の質を確保していくのか」という議論や対応策を検討する必要がある。

2 分校の最低規模について

「2年連続して入学者が20人に満たない状況になった場合、その翌年からの募集停止を検討する」の最低規模の基準については、策定までの協議内容を踏まえると、基準としては尊重すべきであるが、この数字だけにとられることなく、検討していくべきである

〔具体の意見〕

- ア 分校はそもそも小規模ということが前提になっていることから、本校との連携の在り方によっては、もっと取り組めることがあるのではないかと。その在り方について、まずは検討すべきである。
- イ 地元からの支援もあり、もう少し地元の努力を見守ってから、募集停止の有無については判断すべきである。

3 定時制（夜間部）の最低規模について

定時制（夜間部）については、基本的に「本校」や「分校」と最低規模についての考え方が違う。定時制（夜間部）は、規模の重要性ということよりも、弱い立場にある生徒にとっての学びのセーフティーネットとしての側面を重視すべきである。

よって、「学校全体の生徒数が20人以上」の最低規模の基準については、望ましいという数字ではあるが、この数にこだわることなく、地域にとって必要な定時制（夜間部）は残していくべきである。

〔具体の意見〕

- ア 維持する手法として、ICTを活用した社会性の育成など、新たな学びの在り方について工夫する必要がある。
- イ 最低規模を下回っている学校は複数校あるが、大きく20名を下回っている学校はないことから、「後期実施計画」では、募集停止する必要はない。

4 各校の振興策について

各地域内でその学校が担う役割（進学拠点校や多様な生徒への支援校、産業系の専門高校など）を果たせるよう、各校がその特色を磨く方向で振興策について考えていく必要がある。

〔具体の意見〕

- ア 本県の「教育等の振興に関する施策の大綱」（平成 29 年 3 月改訂）や「第 2 期 高知県教育振興 基本計画【改訂版】」（平成 29 年 3 月）を踏まえて学校像を明確にし、PDCA サイクルで検証・改善しながら学校を活性化させていく必要がある。
- イ 中学生が将来を見据えた進路選択をできるよう、広域的な観点から各校がどうあるべきかを踏まえて、各校の在り方を明示する必要がある。
- ウ 大学進学だけを指標とする学校だけでなく、それ以外の指標や学科（総合学科や専門学科）の特色を生かした別の形の魅力化も検討する必要がある。
- エ 中学校への PR や地域との連携を強化する必要がある。

【第 8 回教育委員会協議会での協議・確認事項】

5 南海トラフ地震への対応について

被害が予想されている学校については、生徒の安全第一で検討していく。なお、その際は、想定外も想定していく。

また、学校の移転については、浸水深だけでなく、市町村のまちづくりや BCP※も含め、総合的に判断していく必要がある。

〔具体の意見〕

- ア 清水高校については、一刻も早く高台へ移転すべきである。
- イ 高知海洋高校については、学校の性質上、高台移転は難しいため、現校地での学校早期再開のための BCP を早急に策定する必要がある。

※BCP：本来は、企業が自然災害などの緊急事態に遭遇した時に重要な事業を選択し、早期の復旧を可能にするために作成している事業継続計画のこと。学校においても、被災害の早期の復旧、教育活動の継続は大きな課題である。

6 併設型中高一貫教育校について

(1) 県立安芸中学校について

「存続の有無も含め検討する必要あり」と「継続すべきである」という意見があり、今後、どうしていくかを継続して協議していく。

〔具体の意見〕

- ア 市町村と一緒にどうあるべきかを検討し、判断するべきである。
- イ 今後も児童数が減少していく状況では、現在の入学定員（60 人）を維持することは難しいと予想される。よって、場合によっては、募集停止もありえる。
なお、その場合は市町村立中学校との連携を行うことが必要である。
- ウ 本県の地理的なバランスを考えると必要である。
なお、継続する場合は、進学実績において県民の期待に応えられるように教育内容を充実させることが必要である。
- エ 平成 29 年度の志願者の大幅減の要因も分析しつつ、運動部活動の拠点校としての振興策を図っていく必要がある。

(2) 県立中村中学校について

児童数の減少は、東部に比べると緩やかであり、現在の志願者数も1倍以上あることから、継続するが、進学実績において県民の期待に応えられるように中学校の魅力化を図ると同時に、高校の魅力化・振興策も図りながら、活力ある学校づくりに努める必要がある。

7 学科（総合学科や地域の実態やニーズを踏まえた新たな学科など）について

各地域にバランスよく、学科や進学拠点校、支援を必要とする生徒への対応校等を配置する必要がある。

なお、学校は、教育委員会協議会（地域会）での意見や、それ以外にも地域や学校関係者からの意見も踏まえて、魅力ある学校づくりを行う必要がある。

〔具体の意見〕

ア 地域の特性・実態に応じた学科やコースの設置も必要である。

イ 高大連携や小中高連携等をさらに推進し、その学びのなかで高校の教育内容について理解してもらうことも必要である。

ウ 中山間地域の高校においても、生徒の進学希望へは対応しているが、そのことが十分知られていない。そうしたことも含めて、学校のPRを十分行うことも必要である。

エ 「総合学科」そのものは、生徒が自分の目的にそって科目選択ができる理想的な学科であるが、そのことや教育内容が生徒や保護者、中学校に十分伝わっていない。また、生徒に選択できる力を育てていないなど、学校としての課題がある。そのことに対して、学校は対応する必要がある。

オ 子どもたちが高校選択やその後の進路などを考えるうえで、小学校・中学校段階でのキャリア教育において、自らのキャリアプランを考える学びを充実させることが必要である。

県立高等学校の地域別配置状況について

「前期実施計画」で定めた内容に基づく平成31年4月の設置校（現時点の予定）と、平成30年2月末現在の学科や主な指定等の状況

※現在の須崎工業高校と須崎高校の主な指定等については、須崎総合高校（平成31年4月開校）として記載

※高知国際高校（平成33年4月開校）については、現在の高知南高校と高知西高校の主な指定等を継続（運動部活動除く）する前提で記載

地域	内容 学校名	全日制又は定時制昼間部の学科									定時制 夜間部	通信制	中高一貫教育		進学 拠点校	学び直しの 機能を 持った 学校	運動部活動の強化校		
		普通科	総合 学科	専門学科						併設型			連携型	強化 拠点校			強化推 進校A	強化推 進校B	
				農業科	工業科	商業科	水産科	看護科	その他										
東 部	室戸高校		●								●							女子公式 野球部	
	中芸高校	●								●					●				
	安芸高校	●										●		●		●			
	安芸桜ヶ丘高校					●	●												
北 部	嶺北高校	●											●					カヌー部	
	高知追手前高校 吾北分校	●																	
中 部	城山高校	●													●				
	山田高校	●				●				●								陸上競 技部	
	高知農業高校			●															
	高知東工業高校				●					●									
	岡豊高校	●														●			
	高知東高校		●															レスリ ング部	
	高知南高校	●										●						レスリ ング部	
	高知工業高校				●					●							●		
	高知追手前高校	●												●					
	高知丸の内高校	●																	音楽科
	高知小津高校	●													●				理数科
	高知北高校	●								●	●					●			
	高知西高校	●													●				英語科
	高知国際高校	●											●		●				グロー バル科
	伊野商業高校					●													
	春野高校		●																
高岡高校	●								●						●				
高知海洋高校							●												
高 吾	須崎総合高校	●			●					●								カヌー部	
	佐川高校	●								●								ソフトボ ール部	
	窪川高校	●																	
	檜原高校	●												●				アーチェ リー部	
	四万十高校	●												●					
幡 多	大方高校	●								●	●				●				
	幡多農業高校			●														ボート部	
	中村高校	●										●		●		●			
	中村高校 西土佐分校	●																	
	宿毛工業高校					●													
	宿毛高校		●							●									
清水高校	●								●				●						

地域別の県立中学校・高等学校の在り方の方向性について

ア 東部地域

	学 校 名	「前期実施計画」で明記した 学校の在り方	平成 29 年 9 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における学校の在り方の方向性
1	室戸高校	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ジオパーク等の地域の強みを生かした取組等を通じて教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。また、地元の中学校と授業を通じた連携を強化することにより基礎学力の向上を図り、国公立大学進学から就職まで生徒が希望する進路の実現を支援する。 過疎化が著しく、近隣に他の高校がない学校であり、特例として1学年1学級(20人以上)を最低規模として維持する。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、進路実現を支援する。 	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 23 年度から学校設定科目として「ジオパーク学」(2年次)を開講していたのに加え、郷土理解を一層深めるため、平成 27 年度から1年次に「室戸学」を設置し、「ジオパーク学」につなげる授業を展開し、3年次の「課題研究」でテーマ別発表を行う等、将来の室戸を背負って立つ人材の育成を目指している。 「女子硬式野球部」による生徒確保に努めている。(入学生徒 H27 年度 11 名、H28 年度 11 名、H29 年度 8 名) 平成 29 年度から夏季休業中、中学生に高校生が勉強を教えに行く取組をスタートさせている。 国公立大学進学者は、平成 26 年度 3 人、平成 27 年度 3 人、平成 28 年度 6 人である。 入学者数(定員 80 人)は、H27 年度 63 人、H28 年度 50 人、H29 年度 42 人である。 <p>【現状の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 入学者の減少により、平成 30 年度は 4 系列中 3 系列しか希望者がいない状況である。 今後の生徒数の減少も踏まえると、複数の系列や多様な科目を置くことが困難になっている。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定通併修等により3年間で卒業できる制度(三修制)を導入している。 話す力を育成する取組や、学習スケジュール帳を活用して、自己管理する習慣づくりを行っている。 地域の方々が聴講生(26人、3講座で29人)として学んでいる。 在籍生徒数は、H27 年度 11 人、H28 年度 11 人、H29 年度 17 人である。 	<p>【全日制】(学校の存続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○室戸高校の必要性は、一つ目は、東部の端にあり、子どもたちの選択肢が一つしかないという地理的側面が一番大きい。二つ目は、経済的な側面であり、厳しい環境にある子どもたちも多く、バス代・下宿代も厳しい。三つ目は、室戸市の小中学校のキャリア教育の目標・テーマは、「ふるさとを愛する心を持った児童生徒の育成」であり、その先導役として、高校生の存在は絶対に必要である。 ○室戸高校の全日制、定時制は、ぜひ存続していただきたい。室戸高校がなくなると人口減少に拍車がかかるのではないかと、すごく心配・不安である。 <p>(学科・教育内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現時点では、総合学科か普通科かということより、総合学科のメリットを改めてアピールする必要がある。生徒数と教職員数というの、切り離せない問題だと思う。そこは理解しているので、激減の数を見た時に、いずれ判断しなくてはいけないと思っている。判断材料は子どもにとってどうなのかということ。 <p>(振興策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○室戸高校の女子硬式野球部に対しては、市も精一杯支援をしていきたい。女子硬式野球部の一期生が、高知銀行の室戸支店に就職して、室戸で生活、活躍している。今後もこんな人物が育つことを期待している。 <p>【定時制】(学校の存続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○定時制は、地理的側面、経済的側面、特に夜間の通学になれば交通事故も心配である。近くに学校があってほしい。 <p>(学科・教育内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○定時制の先生の対応は丁寧で、子どもたちが成長している姿が見える。少人数で丁寧に指導してくれる姿を続けてほしい。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○室戸高校の定時制の生徒が全国大会へ行くような時には、振興会の会員総動員でバックアップをしている。そのような状況も踏まえ、定時制をぜひ残していただきたい。 	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域理解と地域の課題発見解決学習を行う「ジオパーク学」と「室戸学」を地域に生かせる内容としてさらに充実させる。 ・地域のイベントや行事への協力、中学校との授業や学校行事での交流をこれまで以上に充実し、地域貢献活動や中学校との連携を強化する。 ・様々な学習歴の生徒へのきめ細かい指導ができるように教育課程を編成し、国公立大学進学から就職まで生徒が希望する進路の実現を支援する。 ・魅力ある学校づくりに取り組み、生徒数の確保に努める。 ・総合学科の在り方についての検討が必要。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[中山間地域にある学校に共通する方向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用により難関校への進学希望にも対応できる学習環境、社会性の育成の確保が必要。 ・市町村との連携により地元中学生からの進学率を更に向上させることが必要。 ・今後、更に魅力ある振興策を検討し、特色ある学校づくりを行い、域外の生徒を確保することが必要。 </div> <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、進路実現を支援する。 ・地域の生涯学習の場として、聴講生用の講座を開講する。 ・最低規模を下回っているが、地理的条件や現状の地域のニーズや実態に応えるため、学校の周知を更に行い、生徒数の確保に努める。

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 9 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における学校の在り方の方向性
2	中芸高校	<p>【昼間部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な学習歴や多様なニーズのある生徒への適切な支援等を通じて教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。また、国立大学進学から就職まで、生徒が希望する進路の実現を支援する。 不登校経験や発達障害のある生徒等にも柔軟な対応ができる支援体制を生かしながら、高校教育の質を保証するため、1学年1学級（20人以上）を最低規模として維持する。 <p>【夜間部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、進路実現を支援する。 <p>(※) 生徒数の減少が見込まれる中で、田野町と安芸市にある中芸高校、安芸高校、安芸桜ヶ丘高校の3校の将来的な在り方を検討する必要がある。</p>	<p>【昼間部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1年次に学校設定科目として「SST（ソーシャルスキルトレーニング）」を設置（平成28年度から）し、社会的に必要なスキルの習得に力を入れている。 進路状況は、大学（4割）、専門学校（2割）、就職（3割）、その他（1割）である。 不登校経験者や発達障害の生徒の在籍率は51%である。 入学者数（定員40人）は、H27年度23人、H28年度26人、H29年度11人である。 現在、高等学校における通級による指導について、文部科学省の「高等学校における特別支援教育推進のための拠点校整備事業」指定を受けて、同居する山田養護学校田野分校の協力を得て研究中である。 <p>【夜間部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定通併修等により3年間で卒業できる制度（三修制）を導入している。 地域の方々が聴講生（15講座で37人）として学んでいる。 在籍生徒数は、H27年度8人、H28年度17人、H29年度18人である。 	<p>【昼間部】 (学校の存続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中芸高校は統廃合ではなく、今の形で存続していただきたい。20人という枠はクリアすべく、地教委も努力が必要だと思っている。 ○中芸高校は、中芸地区のみならず、高知県東部の各地域から、進学している。高卒資格を取得したいという方も多く、なくてはならない学校である。 <p>(学科・教育内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○中芸高校の生徒には、イベントにも参加していただき、「中芸学」という講座に生徒が毎年取り組んでいる。高校生が中芸の魅力をプレゼンして、地域の人の中芸の良さを感じることができるというイベントである。地域の方々も中芸高校を身近に感じ、気が付かなかった自分の町の良さを感じることができている。 <p>【夜間部】 (学校の存続)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○夜間部も、人数的には増えてくる傾向にあると思う。聴講生が多いことを見ても、学びたい時に学べる環境は大事である。 ○地教委と中芸高校で連携して、学校のPRをするのも一つの方法である。 	<p>【昼間部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な学習歴や多様なニーズのある生徒への適切な支援等を通じて教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。また、国立大学進学から就職まで、生徒が希望する進路の実現を支援する。 高校における個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育として、平成30年度から「通級による指導」を導入し、障害のある生徒への支援体制を充実する。 不登校経験や発達障害のある生徒等にも柔軟な対応ができる支援体制を生かしながら、高校教育の質を保証するため、東部地域として、不登校経験や発達障害のある生徒等に対応する高校として地域からのニーズが高く、さらにその対応・支援に対する信頼と効果も高い。学校の周知を更に行い、生徒数の確保に努める。 <p>【夜間部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、進路実現を支援する。 地域の生涯学習の場として、聴講生用の講座を開設する。 最低規模を下回っているが、地理的条件や現状の地域のニーズや実態に応えるため、学校の周知を更に行い、生徒数の確保に努める。

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 9 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における学校の在り方の方向性
3	安芸高校 安芸中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・東部地域の進学拠点校として併設型中高一貫教育を継続し、生徒の国公立大学や難関大学への進学を実現できる支援体制の充実等を通じて、生徒数の確保と適正規模の維持に努める。 ・進学に向けた取組の成果を他の学校にも普及することで県全体の進学指導力を向上させる牽引校とする。 ・南海トラフ地震への対応のため、適地への移転を検討する。 <p>(※) 生徒数の減少が見込まれる中で、田野町と安芸市にある中芸高校、安芸高校、安芸桜ヶ丘高校の3校の将来的な在り方を検討する必要がある。</p>	<p>【中学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学志願者は、H27 年度 78 人 (1.11 倍)、H28 年度 59 人 (0.98 倍)、H29 年度 36 人 (0.6 倍) である。 ・入学定員を平成 28 年度から 60 人とする (平成 27 年度までは 70 人)。 <p>【現状の課題】</p> <p>県立中学校の在り方の検討が必要。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東部地域の児童数が減少している。 ・市町村立中学校 1 校当たりの生徒数が減少している。 ・志願者倍率が 1 倍を越えることが少ない。 <p>【高等学校】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校、高等学校ともに、45 分 7 時間授業や土曜補習の実施等を通して、授業時数の確保と学力向上に努めている。 ・中高一貫教育を生かした入学時からの系統的な学習に取り組んでいる。特に英語教育には力を入れており、その成果を生かして難関私立大学へ進学する生徒もいる (毎年 3～5 名)。 ・毎年、約 20% の生徒が国公立大学へ、さらに 4% は難関私立大学へ進学している。 ・国公立大学進学者は、平成 26 年度 18 人、平成 27 年度 16 人、平成 28 年度 22 人である。 ・平成 29 年度から「東部地域の運動部活動強化拠点校」として、部活動強化に取り組んでいる。 ・入学者数 (H27・28 年度は定員 160 人、H29 年度は 120 人) は、H27 年度 83 人、H28 年度 83 人、H29 年度 95 人である。 	<p>(学科・教育内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○育ててほしい生徒像は、「地域のリーダーとなる生徒の育成」である。具体的な取組としては、高校でも安芸市、他の市町村、県のことでもいいので、地域学習をしていただきたい。 ○普通科の特徴を生かしたボランティア活動で地域に貢献してくれている。 <p>(南海トラフ地震対策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○安芸高校の津波被害については、地域の方もそんなことをおっしゃっていたので、どこかではっきりと申し上げた方がいいとは思っている。 <p>(県立中)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○県立中には県立中の目的があるので、県立中は県立中で頑張ってもらいたい。平成 29 年度の県立安芸中学校の入学者数を聞くと、安芸市から過半数行っている。大変多い。曲がり角にきている。 ○お互いの学校 (県立中学校と市町村立中学校) が競い合うことができ、ありがたいと思っている。県立安芸中学校は目標になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東部地域の進学拠点校として、生徒の国公立大学や難関大学への進学を実現できる支援体制を充実し、学力の定着を図る。 ・進学に向けた取組の成果を他の学校にも普及することで県全体の進学指導力を向上させる牽引校とする。 ・「東部地域の運動部活動強化拠点校」として、充実した取組を行う。併せて、地域の強みや伝統を生かした運動部・文化部の活性化を図る。 ・魅力ある学校づくりに取り組み、生徒数の確保と適正規模の維持に努める。 ・南海トラフ地震への対応や、適正規模を維持する東部地域の拠点校として、活力ある学校づくりが必要。そのため、安芸高校と安芸桜ヶ丘高校の在り方について検討が必要。

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 9 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における学校の在り方の方向性
4	安芸桜ヶ丘高校	<ul style="list-style-type: none"> 工業科では、ものづくりや資格取得等の取組を進め、環境に配慮したインフラ整備に関わる建設技術者や電気技術者等の育成に努める。 商業科では、地場産業や地域観光の振興に寄与する、情報発信や商品開発ができる商業人材の育成に努める。 これらの取組を通じ、地元産業の活性化に貢献する人材の育成を図り、生徒数の確保に努める。 <p>(※) 生徒数の減少が見込まれる中で、田野町と安芸市にある中芸高校、安芸高校、安芸桜ヶ丘高校の3校の将来的な在り方を検討する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「工業科」では、スペシャリストの育成を目指し、ものづくり競技会やデザインコンペへの参加、防災施設の建設や登山道の整備による地域連携・地域貢献に取り組んでいる。なお、平成 26 年には、環境建設科の生徒達が「第 12 回民家の甲子園」において民家大賞を受賞。また、国家資格の「第 3 種電気主任技術者」の合格者を出す等、資格取得の取組も充実させている。 「商業科」では、実践教育によるスペシャリストの育成を目指し、「商い甲子園」や「桜市」等への参加、土佐ゼロラーメン街道プロジェクトによる地域産業の活性化等に取り組んでいる。なお、平成 29 年度『商業高校フードグランプリ 2017』全国大会で、『なすのプリン』が全国優勝。 「環境エネルギー科」を平成 30 年度から募集停止し、工業科 1 科、商業科 1 科の 1 学年 2 学科となる。 入学者数（定員 120 人）は、H27 年度 47 人、H28 年度 27 人、H29 年度 38 人である。 	<p>(学科・教育内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○工業科、土木・建築、商業科の特徴を生かした活動で、地域貢献してくれている。 <p>【安芸中学校・高校と安芸桜ヶ丘高校に共通した内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○（地元からの進学者を増やす方法）地域からと、高校からの 2 つの方法がある。高校からはアピールに来てほしい。高校は子どもが行きたいと思うようなアピールをしなければいけないし、地元へ引き止めるために何をするのかということを高等学校側も考えなければいけない。 ○（南海トラフ地震が起きた場合の安芸高校、安芸桜ヶ丘高校の現在の位置）安芸高校の南舎は耐震補強をされて、津波にも耐えられると聞いている。しかし、校舎からは海がすぐそこに見えるので、津波がザーッと、3.11 のような感じで来たら、やはり恐怖心を抱くと思う。安芸桜ヶ丘高校も、データでは 5m となっていたが、山手の上へすぐに行けるし、球場の方へも上がれるので、安芸桜ヶ丘高校の方は大丈夫と思う。しかし、安芸桜ヶ丘高校は校舎が階段状になっていると思う。 ○（安芸高校と安芸桜ヶ丘高校との統合について）個人的に市民から聞く声としては、「活性化のためには、(安芸桜ヶ丘高校が)元に戻るのもやむなし」とか、「2校のままで頑張ってもらいたい」といった意見を聞く。なお、地域としては、普通科、そして工業科、商業科は残してもらいたいと思っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のニーズに応えるべく、環境に配慮したインフラ整備に係わる建設技術者の育成に努めるため工業に関する学科を「環境建設科」（土木専攻・建築専攻）として更に充実を図る。 工業科では、ものづくりや資格取得等の取組を進め、時代に即した技術者等の育成に努める。 商業科では、地場産業や地域観光の振興に寄与する、情報発信や商品開発ができる商業人材の育成に努める。 これらの取組を通じ、地元産業の活性化に貢献する人材の育成を図る。 魅力ある学校づくりに取り組み、生徒数の確保に努める。 適正規模を維持する東部地域の拠点校として、活力ある学校づくりが必要。そのため、安芸高校と安芸桜ヶ丘高校の在り方について検討が必要。

地域別の県立中学校・高等学校の在り方の方向性について

イ 北部地域

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における「学校の在り方」の方向性
5	嶺北高校	<ul style="list-style-type: none"> ・連携型中高一貫教育を推進するとともに、地域との連携を更に発展させ地域活性化に向けた取組を推進することで教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 ・過疎化が著しく、近隣に他の高等学校がない学校であり、特例として1学年1学級（20人以上）を最低規模として維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭等の学校行事は中高連携して取り組み、部活動は吹奏楽部が中学校と合同で活動している。 ・連携型中高一貫教育を実施している嶺北中学校卒業生の嶺北高校への進学者数の割合は、平成27年度58.8%、平成28年度36.0%、平成29年度48.1%である。 ・自主防犯組織や地域活性化を目指した商品開発など、5つの自主活動があり、地域と連携して高校生が自主的に取り組んでいる。 ・学校支援地域事業との連携や、カヌーによる活性化に取り組んでいる。 ・文部科学省の「遠隔教育」の指定を受け、大規模校との合同授業の実施等、遠隔地の高等学校との授業交流に取り組んでいる。 ・入学者数（定員80人）は、平成27年度26人、平成28年度22人、平成29年度29人である。 	<p>（学校の存続）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域が高校を失った場合、生徒だけでなく、その保護者や家族が地域外へ流出して、地域の存続が危機的な状況になる。 <p>（学科・教育内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○嶺北高校生は地域資源を学びのフィールドとしており、嶺北高校はひとづくりと地域づくりの拠点である。高校生たちは地域課題を解決するため、様々な自主活動をして、先生方はそのサポートをしている。 ○中高連携は、嶺北中学校も土佐町中学校も一緒に連携している。 <p>（振興策）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○嶺北出身の生徒の進学率の向上と、嶺北外の生徒の日本全国からの入学を成し遂げる、魅力の開発、開拓を試みている。 ○その一つが、嶺北カヌープロジェクトに伴う、嶺北高校カヌー部の強化である。 ○嶺北高校でも、カヌーを切り口として県外生徒の受け入れを開始し、嶺北高校「魅力化プロジェクト」を推進していきたい。 ○一つの部活に集中するのではなくて、多彩なスポーツができるような部活動も考えている。 ○まずはカヌーとアウトドアだが、嶺北地域の基盤産業である第一次産業を生かした、地域づくりのための高等学校を目標としていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・連携型中高一貫教育を推進するとともに、地域との連携を更に発展させ地域活性化に向けた取組を推進する。 ・保・小・中・高の連携を行うとともに、生徒の自主活動組織（高校生の地域貢献活動）により、生徒の積極性、自主性を育成する活動を充実する。 ・少人数の利点を生かして、国公立大学進学から就職まで、生徒の多様な進路希望の実現を支援する。 ・カヌー一部生の全国募集など、自治体の協力を得て、地域外からも生徒を受け入れることができる体制を整備し、生徒数の確保に努める。 ・「遠隔教育」等を通じて、生徒の進路希望に応じた選択科目の設置など、教育機会の確保や多様かつ高度な教育に触れる機会を提供することで、教育活動の充実を図る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>[中山間地域にある学校に共通する方向性]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用により難関校への進学希望にも対応できる学習環境、社会性の育成の確保が必要。 ・市町村との連携により地元中学生からの進学率を更に向上させる必要がある。 ・今後、更に魅力ある振興策を検討し、特色ある学校づくりを行い、域外の生徒を確保することが必要。 </div>

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における「学校の在り方」の方向性
6	高知追手前高校 吾北分校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携や生徒一人一人に応じたきめ細かい支援体制を強化する取組や地域の特性を生かした取組を通じて、教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 ・平成 27 年度を起算年として、2 年連続して入学者が 20 人に満たない状況になった場合、その翌年からの募集停止を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動（清流太鼓部）によって、地域の伝統芸能の発展・継承に向けた取組を行っている。 ・国公立大学への進学者（H26 年度 1 人、H27 年度 3 人、H28 年度 1 人）を出すなど、進路指導においても、個に応じた個別支援を丁寧に実践している。 ・文部科学省の「遠隔教育」の指定を受け、平成 27 年度から本校との「遠隔教育」を試行・研究し、授業や生徒交流、進学指導などで活用している。平成 29 年度からは、2 科目において、遠隔授業による単位認定を実施している。 ・入学者数（定員 40 人）は、平成 27 年度 23 人、平成 28 年度 23 人、平成 29 年度 19 人である。 	<p>（学校の存続）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○吾北分校の存在意義は、第 1 に地域に根ざした学校、吾北地域の活性化に欠かせないこと、第 2 に将来に向けたまちづくりである移住・定住の促進であること、第 3 に少人数のよさを生かした、一人ひとりを大切にしたい学校であること、第 4 には大地震が予想される今日、内陸部にある吾北分校の存在意義は大きいことである。 ○吾北中学校の生徒が吾北分校を志願する主な理由は、①吾北分校は、地域貢献のための学校行事を体験させている。②少人数指導で、きめ細かな指導をしてくれ、社会的自立のための進路保障がされている。③地域に貢献のできる人材が育成されている。 <p>（振興策）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○太鼓部は、学校だけでなく、地域の清流太鼓一番風とともに、地域のイベント等で活躍している。 ○少人数指導の魅力や、一人ひとりの進路実現に向けて、きめ細やかで実効性のある、いわゆる社会的自立ができるための資格が取れるような教育課程を編成し、今まで以上に、特色と魅力を発信していただきたい。遠隔授業の継続も考えているので、色々な資格が取れる授業も開設していただきたい。 ○国体選手を輩出できるような、クラブ、部活動の創設など、魅力ある学校づくりをしていきたい。 ○地元の方から、例えば、寮ができないかとか、親子で一緒に吾北地区、本川地区に移り住んでいただいで、そこから通っていただく町営住宅を利用できないかとの提案もいただいている。 ○（寮について）地元の方たちからも話が出ており、旧校舎を利用した寮とか、本川地域にある教職員の住居の利用はできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携、交流活動、地域の特性を生かした取組を通じて、教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 ・少人数の利点を生かして、国公立大学進学から就職まで、生徒の多様な進路希望の実現を支援する。 ・高知追手前高校本校との「遠隔教育」等を通じて、生徒の進路希望に応じた選択科目の設置など、教育機会の確保や多様かつ高度な教育に触れる機会を提供することで、教育活動の充実を図る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〔中山間地域にある学校に共通する方向性〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTの活用により難関校への進学希望にも対応できる学習環境、社会性の育成の確保が必要。 ・市町村との連携により地元中学生からの進学率を更に向上させることが必要。 ・今後、更に魅力ある振興策を検討し、特色ある学校づくりを行い、域外の生徒を確保することが必要。 </div>

地域別の県立中学校・高等学校の在り方の方向性について

ウ 中部地域①

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における学校の在り方の方向性
7	城山高校	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 29 年度より、全日制学年制から、より柔軟な対応ができる全日制単位制に改編し、様々な学習歴や多様なニーズのある生徒への適切な支援等を通じて教育活動の充実を図るとともに、国公立大学進学から就職まで、生徒が希望する進路の実現を支援する。 ・不登校経験や発達障害のある生徒等にも柔軟な対応ができる支援体制を整えた学校であり、特例として 1 学年 1 学級 (20 人以上) を最低規模として維持する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な学習歴や多様なニーズのある生徒への適切な支援を行うことを目的に、基礎学力の定着を図る教育課程の実現や進級等に関して柔軟な対応ができるよう平成 29 年度から全日制単位制に改編し、2 学期制の導入や学び直しの学校設定科目として「ベーシック数学」や「ベーシック英語」を導入している。 ・生徒一人一人の支援シートを作成し、生徒支援委員会を毎月開催するなど、生徒理解・支援に努めている。 ・今年度は、国公立大学を目指している生徒もあり、4 年制大学進学への意識も高まっている。また、就職については、1 回目の試験で第一志望の就職先に内定をもらう生徒が大半である。 ・入学者数 (定員 80 人) は、H27 年度 61 人、H28 年度 41 人、H29 年度 46 人である。 	<p>(学科・教育内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校教育活動のなかでは、夢や希望のある活動も期待をしていきたい。 ○今後とも、城山高校の福祉教育と学校教育にご理解をいただきたい。 ○部活動についても、子どもたちが自分たちの想いを持って十分に活動できるようにさせてやりたい。 <p>(振興策)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○城山高校は、地域の方々の強い要望があってできたものであり、地域の支援や協力には、非常に大きなものがある。 ○赤岡町には絵金歌舞伎の伝統があるので、その活動を高校生に体験させたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な学習歴や多様なニーズのある生徒への適切な支援等を通じて教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 ・生徒へのきめ細かい指導ができるように教育課程を編成する。具体的には、学び直しの学校設定科目の設置・充実や進路希望に応じた科目選択を充実し、国公立大学進学から就職まで、生徒が希望する進路の実現を支援する。 ・地域貢献活動や中学校との連携を強化する。 ・高校における個々の能力・才能を伸ばす特別支援教育として、国の進める「通級による指導」を導入し、障害のある生徒への支援体制を充実する。 ・不登校経験や発達障害のある生徒等にも柔軟な対応ができる支援体制を整えた学校であることから、学校の周知を更に行い、生徒数の確保に努める。

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における学校の在り方の方向性
8	山田高校	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域性を生かし、高知工科大学や企業、地域と連携した取組等を通じて、国公立大学等への進学に向けた学力向上に取り組み、教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 商業科では地域と連携した取組により、地域産業の担い手を育成するとともに、資格取得等の商業科としてのメリットを生かした進学面の充実に努める。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、進路実現を支援する。 	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高知工科大学とは、H26 年度から月 1 回の連携会議を開催し、高大連携を強化するとともに、高知工科大学生による学習支援や部活動支援、進路相談、防災活動、理科クラブ活動等、様々な面で大学生との交流・支援を進めており、関わっている大学生は 60 人を超えている。 「香美市学園都市構想」を具現化するために、香美市教育委員会、高知工科大学、山田高校の 3 者で月 1 回の香美教育コラボ会議を開催し、香美市こども会議等、協働した取組を展開している。 文部科学省の「学校地域協働本部事業」を受託し、「地方創生に有意な人材の育成」を目的に、「総合的な学習の時間」において地域課題探究学習に取り組んでいる。 学び直し時間を設定し、基礎学力の定着に努めている。 進学指導としては、東京大学金曜特別講座の受講やスタディ・サプリの活用等を実施し、国公立大学への現役進学者が H26 年度 12 人、H27 年度 12 人、H28 年度 16 人と増加している。 就職については、5 年連続で就職内定率 100%である。 入学者数（定員 200 人）は、H27 年度 139 人、H28 年度 147 人、H29 年度 158 人と増加傾向にある。 商業科では、「商品開発」やプレゼン力、資格取得を推進しており、H26 年度からの 3 年間で、第 8 回全国商い甲子園最優秀賞及び高知工科大学長賞（2 回受賞）、高知県地場産業大賞次世代賞（2 回受賞）等を受賞している。特に、H27 年度に地元企業と協働開発した「高校 3 年生の山田まん」は、高い評価を得て販売良好である。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定通併修等により 3 年間で卒業できる制度（三修制）を導入している。 進路講演会や進学・就職補習などを実施。就職については、就職希望者の内定率は、8 年連続 100%である。 在籍生徒数は、H27 年度 38 人、H28 年度 32 人、H29 年度 29 人である。 	<p>（学科・教育内容）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○香美市では、コミュニティ・スクールや地域協働本部の設置、探究型学習（自ら学び自ら考える力の育成を図る学習）による学力向上への取組、高知工科大学との連携などを進めている。 ○香美市の「人づくりによるまちづくり」を推進するに当たり、現在、山田高校が、生徒の人間力を高める探究型学習を力強く進めていること、学力向上に力を注いでいることは貴重で、本市発展の希望である。 ○地域の方たちが、山田高校に元気をもたらしている状況がある。学力向上に力を注ぎ、国公立大学等への進学率が向上してきたことにも喜んでいる。 ○高知工科大学との連携は次第に進み、小・中・高等学校との総合連携を行っている。 ○地域からの進学率を上げるには、山田高校が明らかに変化、充実したことが分かる施策が必要である。 ○「後期実施計画」では、山田高校を探究型、高知工科大学との連携型の高校にすることを提案する。一つは、探究型教育の特色が明確に伝わる科やコースの新設、教育課程編成の工夫を提案する。2 つ目には、高知工科大学との連携の特色が伝わるような指定事業等を行っていただき、特色を明確に示すことができる学校づくりを提案する。 ○行政として、できることは精一杯やっていく。高校生の通学についても、来年の 4 月から、かなり思い切った応援をさせていただく。やはり、山田高校から大学へつなげていきたい。高知工科大学へ 40 人、50 人行くような高校にしたいし、そこまで実現したい。 ○高知工科大学が山田高校を附属にしたいと思うような高校に発展しなければいけないと思っている。 	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 中部地域の東部（香美香南地区）の進学拠点校として、地域をテーマとした課題発見解決学習や授業における探究型学習を通して国公立大学への進学者数を更に増加させる。 「香美市学園都市構想」を踏まえ、香美市の小学校・中学校で培ってきた探究型学習を発展・進化させ、高知工科大学における研究・学習につなげることにより、学校教育における探究型学習を地域で完成させる。 探究型学習の推進を図るとともに、共同プログラム開発など高知工科大学への接続を図るための魅力ある学科やコースの新設について検討する必要がある。 普通科については、コース別に特色ある教育課程を編成する。なお、キャリア教育を充実させ、特に国公立大学への進学を実現できる支援体制の充実等を図る。 商業科では地域と連携した取組により、地域産業の担い手を育成するとともに、資格取得等の商業科としてのメリットを生かした進学・就職の充実に努める。なお、商業科においても高知工科大学との連携を更に推進する。 これら上記の取組を通じて、生徒数の確保に努める。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、進路実現を支援する。

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における「学校の在り方」の方向性
9	高知農業高校	<ul style="list-style-type: none"> ・本県の農業教育を担う中心的な学校として、農業のもつ教育力を最大限に活用し、動植物の飼育栽培を通して、命の尊厳や豊かな心、感謝の心を育み、倫理観や規範意識などを重視した人材の育成を行うなどの教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 ・国公立大学進学から就職まで、生徒が希望する進路の実現を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次の取組を推進し、この3年間で入学者数は49人増（H26年度156人⇒H29年度205人）、在籍生徒数は93人増（H26年度498人⇒H29年度591人）となる。 「地域連携・地域貢献」、「幼保から大学までの交流・連携」 「専門力の還元（プランター草花管理や高校生レストランなど）」 専門機関やフィールドを活用した現場体験や実習の充実 「学校開放（高農ふれあい市、アンテナショップ）」の開催 「専門力の向上（茶摘み、みそ加工、白菜販売、シャモ鍋提供）」を促す取組 ・進路については、進学6～7割、就職3～4割であり、国公立大学への進学者は、H26年度6人、H27年度3人、H28年度0人である。 ・「学校で学んだことを生かせる進路選択」をスローガンに取り組んでおり、平成28年度卒業生の進学・就職先では、約65%の生徒がそうした進路に決定している。 	<p>（学校の存続） ○高知農業高校は、農業後継者育成で、絶対なくしてはならないという思いである。高知県内で一番肥沃な香長平野で農業後継者を育てていくため、縮小したり、科を少なくしたりすることのないように現在のままで、設置しておいてほしい。</p> <p>（学科・教育内容） ○高知農業高校には、現在6学科であるが、2年生から全学科でAコースは専門コース（後継者、就職等の養成）、Bコースは進学コースということで、丁寧な取組をしている。農業の近代化と農業の担い手、後継者の育成、自営業等に関する取組で、生活総合科、食品ビジネス科等では、農業関連産業に従事しようという子どもたちが頑張っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本県の農業教育を担う中心的な学校として、「農業を学ぶ」ことによる農業後継者の育成と併せて、「農業で学ぶ」という観点から、農業のもつ教育力を最大限に活用し、動植物の飼育栽培を通して、命の尊厳や豊かな心、感謝の心を育み、倫理観や規範意識などを重視した人材の育成を行うなどの教育活動の充実を図る。 ・地域の農業支援センターとして、地元農家や農業関連機関等との連携を図り、これまで蓄積した教育力を地域に還元する取り組みを充実する。 ・併せて、新しい生産技術やグローバル化による競争力、6次産業化等に対応できる高い専門技術や教養を身に付けることができるよう、農業生産工程管理（GAP）教育や、食品製造に関するHACCP教育の内容の充実に取り組む。 ・基礎学力の定着と専門力の育成を図り、国公立大学進学から就職まで、生徒が希望する進路の実現を支援する。

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における「学校の在り方」の方向性
10	高知東工業高校	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着と社会性の育成を図り、将来の就職につなげる。また、きめ細かい指導ができるように教育課程を編成し、工業系大学等への進学にも対応できるように教育活動の充実を図り、生徒数の確保に努める。 地域の企業や高知工科大学等の高等教育機関と連携した取組や先端技術への対応により専門的な知識・技能を身に付けた、ものづくりに強い人材を育成する。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 働きながら学ぶことや学び直しなど、多様な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、進路実現を支援する。 	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着に向けて、学習支援員の活用や専門教科でのフォローアップ、加力補習等を実施している。 ものづくりを通して、社会性の育成を図っている。 平成 26 年度から「理工学科」を募集停止とし、4 科（機械科、機械生産システム科、電子科、電子機械科）に理工学科で培った大学進学等に関するノウハウを活かす学科改編を行った。具体的には、大学受験にも対応する選択科目の設置や習熟度別学習、少人数による徹底した学力向上対策などを行い、大学進学希望者に対する支援体制を充実させている。（国公立大学進学者は、H26 年度 1 人、H27 年度 4 人、H28 年度 2 人） 入学者数（定員 160 人）は、H27 年度 109 人、H28 年度 124 人、H29 年度 115 人である。 企業の技術者による講演や技術指導をとおして、資格取得や技術の習得に努めると同時に、5 日間のデュアルシステムや企業見学を通して、企業連携も推進している。 企業との共同研究を行い、全国鉄道模型コンテストに出展している。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定通併修等により 3 年間で卒業できる制度（三修制）を導入している。 ものづくりを通じてキャリア教育を推進している。 在籍生徒数は、H27 年度 33 人、H28 年度 40 人、H29 年度 34 人である。 	<p>【全日制】 （学校の存続）</p> <p>○（高知東工業の高知市内校との棲み分け）高知東工業高校が高知工業に再編されるとなると、子どもたちが、高知工業高校へ行くしかならない状況になる。高知東工業高校には特色ある科の運営をされているので、高知工業高校の科と比べて、選択しているので、高知東工業高校の価値は大きい。</p> <p>（学科・教育内容）</p> <p>○高知東工業高校にも本当に感謝している。全日制が 4 学科で、南国市内の工業生産関連会社へ、多くの子どもが就職している。「垣内」、「栄光工業」など優秀な企業に卒業生が入っている。進学コースの理工学科が 3 年前に廃止されたが、現在の 4 学科からも進学しており、高知高専を受験する子どもが増加した。理工学科がなくなったため、子どもたちが高専を受けるようになった。小学校、中学校には、出前授業で学校現場に入らせていただいている。</p> <p>【定時制】 （学校の存続）</p> <p>○定時制の卒業式に出席するが、働きながら、苦しい 3 年間（中には 4 年間）を本当にやり抜いてきた生徒さんの、あの想いを受け止めて保護者も私も涙を流している。厳しい状況のなかで働きながら学ぶ、定時制の存在について、お力添えをいただきたい。</p>	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 機械系と電気系に特化した工業高校として、専門的な知識や技能を身に付け、実習や課題研究等により問題解決能力を備えた志ある産業人材の育成を図る。 地域の企業や学校（小中高大）、地域行政機関等との連携や取組を通して、「ものづくり」の魅力を広く地域に発信し、社会に貢献できる人材を育成する。 基礎学力の定着と社会性の育成を図り、将来の就職につなげる。また、きめ細かい指導ができるように教育課程を編成し、工業系大学等への進学にも対応できるように教育活動の充実を図る。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 働きながら学ぶことや学び直しなど、多様な学習歴をもつ生徒に対して、一人一人へのきめ細かな教育活動を実践する。 基礎学力の定着とともに、勤労観や職業観を身に付け、進路実現を図る。

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における「学校の在り方」の方向性
11	岡豊高校	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な進路希望に対応できる多様なコースを教育課程に置き、きめ細かい学習指導を徹底し、生徒に確かな学力を定着させ、国公立大学進学から就職まで、生徒が希望する進路の実現を支援するなど、教育活動の充実に努める。 ・学習活動に加えて、部活動では練習環境の充実を図り、生徒の心身の鍛錬に励み、全国大会で活躍できる人材を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・5つの系列と2つのコースにより、生徒の実態や進路希望に即した学びを提供している。 ・文部科学省の「遠隔教育」の指定を受け、大規模校のメリットを生かした遠隔地の高等学校への授業配信に取り組んでいる。 ・文部科学省の「外国語教育強化地域拠点事業」の指定を受け、小中高の円滑な接続の在り方について、研究に取り組んでいる。 ・国公立大学への進学者は、H26年度21人、H27年度23人、H28年度17人である。 ・進路の内訳は、大学進学4割強、専修・各種学校進学4割強、就職1割である。 ・平成29年度から「中部地域の運動部活動強化拠点校」として指定を受けている。なお、運動部、文化部ともに複数の部が毎年、全国大会に出場し、活躍している。 ・部活動も含め学校教育全体で礼節を重んじる教育を実践している。 	<p>(学科・教育内容)</p> <p>○普通科の岡豊高校には、普通科に体育コース、芸術コースがあり、3年間、専門的なコースで学ぶことができる。芸術コースは、音楽コース・美術コース・書道コースと、それぞれの専門を生かし、それぞれ専門コースへの進学もできる。それ以外の普通科では、2・3年生では、理系・文系に、また、文系は国公立の文系Ⅰと私立の文系Ⅱに分かれ、きめ細かく指導していただいております。商業を目指して就職、短大等に希望する子どもは、ビジネス系のコースを選ぶことができます。家政系の大学・短大、専門学校へ行きたい生徒は、生活文化系を選ぶことができます。普通科ではあるが、子どもたちの希望に沿った総合的なコースを保障できるようになっている。</p> <p>○運動部・文化部ともに、全国に誇れる素晴らしい活動をしてきており、吹奏楽部が小学校・中学校の文化祭とか記念行事に演奏に来てくれる。美術・書道コースも対応してくれる。小中学校でしっかり学力を付け、それぞれ希望する学科へ進学してもらいたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な学習を可能にする教育課程のもと、生徒の進路希望に応じた多様な学びを提供し、国公立大学進学から就職まで、生徒が希望する進路の実現を支援する。 ・「中部地域の運動部活動強化拠点校」であり、また、体育コース・芸術コースの専門性を活かして、運動・文化の両分野にわたり部活動を更に活性化して、心身を鍛え、個性を伸ばし、将来社会で活躍できる人材を育成する。 ・大規模校のメリットを活かして、遠隔授業等に取り組み、中山間小規模校の教育活動を支援する。

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における「学校の在り方」の方向性
12	高知東高校	<ul style="list-style-type: none"> 総合学科は、基礎学力の定着を進めるとともに、その特徴である系列による多様な進路希望に対応できるカリキュラムを生かした進路指導により、教育活動の充実に努める。また、看護科との連携により、医療分野への進学を支援する。 看護科は、専攻科との5年間の一貫教育の充実に努め、質の高い専門教科の実践と少人数制によるきめ細かい指導により、将来、看護師として活躍できる人材を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 総合学科では、5系列（人文社会、自然科学、国際コミュニケーション、情報メディア、生活教養）を設け、多様な科目を選択できるカリキュラムとしている。 部活動では、特にレスリング部が毎年、全国大会で入賞するなど活躍している。 進路については、過去3年間の平均では、8割が進学、2割が就職している。なお、年々、進学の高くなってきており、平成28年度は、9割が進学となっており、国公立大学へも5人が進学した。 看護科は、国家試験の合格率100%を維持している。 <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合学科としてのメリットが十分に生かされていない。 		<ul style="list-style-type: none"> 幅広い選択科目から進路にあった科目を学習する総合学科の特色を生かした教育を推進し、多様な進路希望に対応できるカリキュラムを生かした進路指導により、教育活動の充実に努める。 看護科は、専攻科とあわせて5年間の一貫教育による看護師養成を行い、医療機関と連携した実習や授業内容の充実に努めることにより、将来、看護師として活躍できる人材を育成する。
13	高知南高校 高知南中学校	<ul style="list-style-type: none"> これまで取り組んできたキャリア教育と国際理解教育の更なる充実に努め、将来の進路を実現できる確かな学力とともに、語学力や課題解決能力を身に付け、将来、グローバル人材として活躍できる人材を育成する。 生徒数の減少への対応、グローバル人材の育成、南海トラフ地震への備えのため高知西高校と統合し、新たな中高一貫教育校に移行する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成26年度からグローバル教育（探究型学習・英語教育プログラム）を推進している。なお、平成30年2月に成果発表会の開催を予定しており、県内他校への普及につながる取組を展開している。 学校独自の学力向上プランを作成し、学力向上と英語運用能力の育成、進路保障に向けて計画的に取り組んでいる。 高知南中学校・高等学校としては、平成32年度が最後の入学生となり、平成35年4月に統合完了となる。 平成30年4月高知国際中学校開校。平成33年4月から高知南中学校の卒業生については、基本的に高知国際高校の普通科に入学する。 		<ul style="list-style-type: none"> 高知西高等学校と統合して、高知国際中学校・高等学校に移行する。

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における「学校の在り方」の方向性
14	高知工業高校	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 工業科の拠点校として、体験的・課題解決的な学習を通して地域や我が国の工業技術の発展やものづくりに貢献する人材を育成する。 工業教育の牽引役として、就職と国公立大学や難関大学への進学希望にも応えられる指導体制の充実等を通じて教育活動の充実に努める。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 働きながら学ぶことや学び直しなど、多様な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、進路実現を支援する。 	<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 26 年度から、自ら学び行動する生徒の育成を目指して、1・2 年次には高知工科大学と連携した探究型学習などを行い、その中でも 2 年次には科を超えたグループ活動を行っている。3 年次には「課題研究」において、科を超えたグループ研究にも取り組んでいる。 社会でも十分評価されるインテリア設計士、測量士、施工監理技術者や各種技能検定等、資格取得のための指導体制を整えている。 進学と就職は、ほぼ 5 : 5 の割合である。進学については、半数が大学、そのうち国公立大学へは毎年 20 人を超えて進学している。就職については、これまでは県外・県内の内訳は、ほぼ半々であったが、本年度卒業予定者については、県内内定が大幅（H28 年度 40.6%⇒H29 年度 60.2%）に増加している。 公務員へも毎年 10 数人程度合格している。 <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定通併修等により 3 年間で卒業できる制度（三修制）を導入している。 専修コース（建築科）もあり、就労している生徒は約 7 割である。 中卒者、高卒者、大卒者、社会人と多様な生徒が学び、各自の希望に応じた指導を着実にやっている。 在籍生徒数は、H27 年度 87 人、H28 年度 81 人、H29 年度 70 人である。 		<p>【全日制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 工業学科をもつ学校の拠点校として、体験的・課題解決的な学習を通して地域や我が国の工業技術の発展やものづくりに貢献する人材を育成する。 高知工科大学と連携した探究型学習などを行うとともに、高度な資格取得に向けた指導体制を充実する。 「中部地域の運動部活動強化拠点校」として、競技力の向上を図るなど、運動部活動の振興を通じた特色ある学校づくりに取り組む。 <p>・工業教育の牽引役として、就職と国公立大学や難関大学への進学希望にも応えられる指導体制の充実等を通じて教育活動の充実に努める。</p> <p>【定時制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 専修コースや編入制度などの活用により、高い専門性を身に付けることや資格取得を支援する。 働きながら学ぶことや学び直しなど、多様な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、進路実現を支援する。

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における「学校の在り方」の方向性
15	高知追手前高校	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い教養と、探究する力や高い活用力を身に付け、将来、我が国の科学技術の発展を支える人材や、グローバル化した社会で国際的に活躍できる人材、地域を支え貢献できる人材を育成する。 進学拠点校としての取組を充実するとともに、その成果を他の学校にも普及することで県全体の進学指導力を向上させる牽引校とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 「質実剛健・文武両道」を校訓として、80%以上の生徒が部活動に所属し、勉強と部活動との両立を目指して努力を重ねている。 「将来を見据え、次代をリードする人材の育成」をスクール・アイデンティティとし、その実現のための取組として「レオプロジェクト」を行ってきた。平成 27 年度からは時代の変化に応じた教育内容の充実のために従来の取組の見直しを図り、平成 30 年度に新体制の「レオプロジェクト」を始動させる。 平成 29 年度には、新たに「授業改善推進委員会」「大学入試対応委員会」を立ち上げ、新学習指導要領や高大接続改革を見据えた指導体制を整備している。 近年は、卒業生の約 50%が現役で国公立大学に合格（H26 年度 144 人、H27 年度 149 人、H28 年度 114 人）している。また、直近 3 か年で、東京大学 2 人（現役 2 人）、京都大学 7 人（現役 4 人）、大阪大学 12 人（現役 10 人）、旧 7 帝大合計では 34 人（現役 28 人）が合格している。 直近 3 か年で、医療系大学医学部に 6 人（現役 5 人）が合格している。 難関私立大学への直近 3 か年の現役での合格者は、慶應義塾大学 6 人、早稲田大学 5 人、同志社大学 9 人、立命館大学 33 人、関西大学 18 人、関西学院大学 15 人である。 本校で大学進学における教科指導や進路指導のノウハウを身に付けた教員が人事異動により他校で勤務することで、県全体の進学指導力の向上に寄与している。 文部科学省の「遠隔教育」の指定を受け、平成 27 年度から吾北分校と遠隔授業を実践している。このように遠隔教育を通じて、専門性が必要な科目や質の高い授業を他校に配信している。 		<ul style="list-style-type: none"> 全ての教育活動を通して、奮闘努力の精神と、幅広い教養や探究する力、高い活用力を身に付け、将来にわたって自立的、持続的に、自他の幸福を目指す「志」の追求と実現に取り組むことができる生徒を育てる。それによって、将来、我が国の科学技術の発展を支える人材や、グローバル化した社会で国際的に活躍できる人材、地域を支え貢献できる人材を育成する。 進学拠点校としての取組を充実するとともに、県全体の進学指導力を向上させる牽引役を担う。 遠隔教育の中核をなす学校として、遠隔授業等に取り組み、中山間小規模校の教育活動を支援する。

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における「学校の在り方」の方向性
16	高知丸の内高校	<ul style="list-style-type: none"> 多様な生徒のニーズや大学等への進学のために必要な学力等を向上させるため、全日制単位制の特色を生かしたカリキュラムを通して教育活動の充実に努める。 音楽科における専門的な知識、技能を伸ばす取組等を通じて、豊かな人間性と創造性を備えた生徒を育成する取組を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学力向上に向けた取組や意識改革を行い、センター試験受験者が倍増(H27年度58人、H28年度100人)し、国公立大学への進学者数も増加(H26年度7人、H27年度21人、H28年度17人)している。 文部科学省の「高校生の基礎学力の定着に向けた学習改善のための調査研究事業」の指定を受け、「思考力・判断力・表現力」を育成する学習指導の在り方や、少人数の教員グループ「ユニット」による相互参観の仕組みの構築、教科会や学力向上検討委員会による検証の在り方などについて、校内のPDCAサイクルの確立による授業改善と授業外学習の充実の実現を目指した研究に取り組んでいる。 生徒支援委員会を開催し、多様な生徒のニーズに応える支援策などを話し合い、チームで対応している。 音楽科では、教員によるコンサートや、高知市内の中学校との合同練習、公開レッスン等を実施している。 音楽科の入学者数(定員30人)は、H27年度20人、H28年度21人、H29年度13人である。 <p>〔課題〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽科の志願者が少ない状況にある。 		<ul style="list-style-type: none"> 多種多様な選択科目の設定や、大学等との連携授業など単位制の特色を生かし、生徒の進路希望に応じたカリキュラムの充実を通して教育活動の充実に努める。 音楽科は、専門科目の学習や音楽大学との連携した授業により技術の向上に努めるとともに、音楽活動を通じて豊かな感性を持った生徒の育成に努める。

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における「学校の在り方」の方向性
17	高知小津高校	<ul style="list-style-type: none"> ・理数教育の拠点校として、将来、理数系分野の研究者や技術者として活躍できる人材を育成する。また、スーパーサイエンスハイスクール事業の成果を活用した取組を推進し、本県の理科教育を牽引する。 ・進学拠点校としての取組を充実するとともに、その成果を他の学校にも普及することで県全体の進学指導力を向上させる牽引校とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・理系の充実を教育目標に掲げ、理科・数学の学力伸長につながる教科指導を徹底し、大学進学者のうち 6 割が理系学科に進学している。 ・入学者についても理系を希望する生徒が増えており、普通科においても 2 年次からのコース選択では、理型（理系コース）が 3 クラスと全体の半数を占める割合で安定している。 ・スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業は、平成 29 年度からも連続 4 期目の指定を受け、県内では 3 大学（高知大学、高知工科大学、高知県立大学）、県外では大阪大学等と積極的に連携・協働した取組を推進している。また、今年の 1 年生から、学年全体（普通科を含む）に拡げた課題研究の取組を、県内の施設、企業の協力を得て推進している。 ・SSHの活動内容については、年 1 回報告会を実施（中学生やその保護者、他校の教職員も参加）している。 ・進学実績としては、国公立大学に H26 年度 101 人、H27 年度 114 人、H28 年度 82 人が合格しており、私立大学を含めると全体の約 65% が大学に進学している。 ・進路指導や教科指導の成果の普及については、高等学校教科研究会の会議や公開授業への参加・発表等をとおして、そのノウハウを広く共有している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理数科の志願者が少ない状況にある。 		<ul style="list-style-type: none"> ・理数教育の拠点校として、スーパーサイエンスハイスクール事業に学校全体で取り組み、グローバルに活躍できる人材の育成に努めるとともに、本県の理科教育を牽引する。 ・難関大学を含む国公立大学への進学実績を向上させ、進路保障の充実を図るとともに、進学拠点校としてその成果を他の学校にも普及することで県全体の進学指導力を向上させる牽引校とする。

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における「学校の在り方」の方向性
18	高知北高校	<p>【昼間部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多部制単位制と通信制を併置する学校としての特性を生かして、様々な学習歴や多様なニーズのある生徒への適切な支援を行う。また、生徒の特性に配慮した教科指導やカウンセリング機能の充実等を通じた教育活動の更なる充実に努める。 <p>【夜間部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 働きながら学ぶことや学び直しなど、様々な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、進路実現を支援する。 <p>【通信制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な学習歴をもつ生徒のニーズに応え、生徒の学習ペースに応じた学習を支援するとともに、進路実現を支援する。 	<p>【昼間部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定通併修等により3年間で卒業できる制度（三修制）を導入している。 20人前後の少人数による授業を実施している。 午後の時間帯に共通講座（3課程共通の能力や進路に応じた12講座）や特別講座（生徒・一般の方を対象とした教養や人間性を育む6講座）を設けている。 SC、SSWの支援も含め、教職員が一丸となって支援しており、進路希望に応じた個別支援なども実施している。 高知大学生による学生支援員制度を実施しており、生徒とのマッチングを検討のうえ、週に数回、生徒への学習支援や進路に関する相談等を担ってもらっている。 2学期制を導入しており、前期中間考査後には保護者面談、後期末には三者面談を実施し、保護者と共に生徒を支援していく対応を実施している。 <p>【夜間部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定通併修等により3年間で卒業できる制度（三修制）を導入している。 県体などでも活躍し、生徒が学校を居場所として実感できる支援を推進している。 1年次の数学では、卒業生の高知大学院生によるサポート指導を実施し、基礎学力の定着を図っている。 若者サポートステーションや就職アドバイザーと連携した進路指導、外部講師による面接指導、職場体験等を実施し、進路保障に努めている。 <p>【通信制】</p> <ul style="list-style-type: none"> スクーリング時には、教育相談担当教諭も関わるなど、支援を充実している。 入学者数は、平成27年度82人、平成28年度98人、平成29年度126人である。 0単位で入学してくる生徒のうち約半数が中学校の新卒者、残り半数が公私立高校の中途退学者であり、近年は、中学校の進路指導の際の選択肢の一つとして、通信制が認識されてきている。 		<p>【昼間部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様なニーズを持つ生徒に応じたきめ細やかな支援を行い、社会的スキルを向上させる学習を取り入れることで、進路希望の実現を目指す。 <p>【夜間部】</p> <ul style="list-style-type: none"> 働きながら学ぶことや学び直しなど、多様な生徒の居場所づくりを推進し、限られた時間を活用して学ぶことで進路希望の実現を目指す。 <p>【通信制】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な学習歴を持つ生徒に対する支援を行い、計画的な学習を確実に継続できる生徒の育成に努める。

	学校名	「前期実施計画」で明記した学校の在り方	平成 29 年 10 月末現在の状況	地域会でのご意見	「後期実施計画」における「学校の在り方」の方向性
19	高知西高校	<ul style="list-style-type: none"> グローバル教育を推進するとともに、進学拠点校としての取組を充実し、その成果を他の学校にも普及することで県全体の進学指導力を向上させる牽引校とする。 生徒数の減少への対応、グローバル人材の育成、南海トラフ地震への備えのため高知南中学校・高校と統合し、新たな中高一貫教育校に移行する。 	<ul style="list-style-type: none"> 文部科学省のスーパーグローバルハイスクール（SGH）の指定に基づき、平成 27 年度からグローバル教育を推進しており、その取組を始めた 1 期生が本年度 3 年次となり、プログラムの完成年度である。 文部科学省の「外国語教育強化地域拠点事業」の指定を受け、小中高の円滑な接続の在り方について、研究に取り組んでいる。 高知西高校としては、平成 32 年度が最後の入学生となり、平成 35 年 4 月に統合完了となる。 		<ul style="list-style-type: none"> 高知南中学校・高等学校と統合して、高知国際中学校・高等学校に移行する。
20	高知国際高校 高知国際中学校				<ul style="list-style-type: none"> グローバル教育のトップ校として、探究型学習とキャリア教育を推進し、地域や国際社会の発展に貢献できるグローバル人材を育成する。 国際バカロレア（IB）の教育プログラムに基づいた教育活動を行い、外国の人々と協働できる高い英語運用能力と探究力やバランスのとれた国際感覚と行動力を育成する教育活動を充実する。 国際バカロレア（IB）のミドル・イヤーズ・プログラム（MYP）は平成 32 年 8 月に、ディプロマ・プログラム（DP）は平成 33 年 4 月に認定校になることを目指す。 難関大学を含む国公立大学への進学を支援する。また、国際バカロレア資格を活かした受験を想定し、国内外のグローバル化に重点を置く大学への進学に対応できる力を育成する。 平成 30 年 4 月 高知国際中学校開校 平成 33 年 4 月 高知国際高校開校

県立中学校に関する資料

1 県立中学校の入学者募集について

(1) 入学定員の推移 (人)

年度	H25	H26	H27	H28			H29			H30		
				男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
県立安芸中学校	70	70	70	30 程度	30 程度	60	30 程度	30 程度	60	30 程度	30 程度	60
県立高知南中学校	120	120	120	60 程度	60 程度	120	60 程度	60 程度	120	30 程度	30 程度	60
県立高知国際中学校										30 程度	30 程度	60
県立中村中学校	70	70	70	35 程度	35 程度	70	35 程度	35 程度	70	35 程度	35 程度	70

(2) 志願者数の推移 (人)

年度	H25	H26	H27	H28			H29			H30		
				男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
県立安芸中学校	57	66	78	31	28	59	10	26	36	10	44	54
県立高知南中学校	259	235	223	76	113	189	66	114	180	60	79	139
県立高知国際中学校										91	148	239
県立中村中学校	164	114	115	42	57	99	36	51	87	19	53	72

(3) 志願倍率の推移

年度	H25	H26	H27	H28			H29			H30		
				男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
県立安芸中学校	0.81	0.94	1.11	1.03	0.93	0.98	0.33	0.87	0.60	0.33	1.47	0.90
県立高知南中学校	2.16	1.96	1.86	1.27	1.88	1.58	1.10	1.90	1.50	2.00	2.63	2.32
県立高知国際中学校										3.03	4.93	3.98
県立中村中学校	2.34	1.63	1.64	1.20	1.63	1.41	1.03	1.46	1.24	0.54	1.51	1.03

2 県立中学校への進学実績のある市町村別小学6年生の児童数について

※平成29年度以降は推計

※県立高知南中学校及び高知国際中学校については、「前期実施計画」で在り方を明記している
るので、学校別の表は省略している。

(1) 県立安芸中学校への進学実績のある市町村別小学6年生の児童数(人)

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
室戸市	126	112	110	91	90	85	78	83	79	70	65	91	69	79	49
奈半利町	30	22	17	34	29	20	25	29	20	20	12	18	17	28	14
北川村	10	13	5	16	13	14	12	7	8	11	9	9	8	9	6
田野町	33	23	23	22	19	27	17	16	18	17	15	17	11	13	14
馬路村	14	7	16	10	9	2	6	4	4	8	8	6	5	8	13
安田町	32	21	21	20	10	25	19	17	7	8	11	13	13	10	10
安芸市	166	156	180	143	161	139	145	124	136	125	139	138	110	108	106
芸西村	37	35	28	31	44	32	32	23	26	33	35	16	42	23	19
香南市	332	363	293	328	324	372	333	313	316	291	297	287	287	280	285
計 (香南市含む)	780	752	693	695	699	716	667	616	614	583	591	595	562	558	516
計 (香南市除く)	448	389	400	367	375	344	334	303	298	292	294	294	275	278	231

(2) 県立中村中学校への進学実績のある市町村別小学6年生の児童数(人)

年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
四万十町	177	168	172	148	154	153	120	159	134	117	134	105	108	107	120
黒潮町	109	102	116	82	93	90	100	96	64	82	78	64	79	75	63
四万十市	329	306	336	351	323	328	329	278	277	283	257	258	279	237	259
宿毛市	250	230	220	188	195	195	151	198	154	145	165	151	174	162	162
三原村	20	9	10	10	15	11	14	8	17	9	10	10	3	8	8
大月町	52	53	42	42	52	30	40	46	26	42	34	28	30	27	23
土佐清水市	134	139	115	123	128	113	93	92	81	83	100	78	74	65	57
計	1071	1007	1011	944	960	920	847	877	753	761	778	694	747	681	692

安芸高校と安芸桜ヶ丘高校の入学に関する状況

1 入学者数

※安芸高校：入学定員（H28まで160人・H29から120人）、安芸桜ヶ丘高校：入学定員（120人）

年度	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
安芸高校	154	127	136	127	129	136	123	108	114	83	83	95
安芸桜ヶ丘高校	91	74	67	63	101	66	70	40	54	47	27	38
計	245	201	203	190	230	202	193	148	168	130	110	143

2 今後の入学者数の推計

※安芸高校：入学定員（120人）、安芸桜ヶ丘高校：入学定員（80人）

年度	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38
安芸高校	92	78	72	74	79	81	70	69	63
安芸桜ヶ丘高校	37	32	29	31	32	32	31	28	25
計	129	110	101	105	111	113	101	97	88

安芸市内の県立学校の津波被害について

学校名	浸水深 (敷地の一番 低い所から)	30cm津波 到達時間	校舎	避難場所 ※1	標高	広さ	避難 距離	避難 時間	校舎の 避難指定 ※1	備考
安芸中学校・高校	5m 全ての校舎の 2階まで浸水	57分	4階建	北舎屋上	23.5m	849m ²	校内	校内	津波避難 ビル	<ul style="list-style-type: none"> ○南舎はH27.1着工、H28.2完成 ○南海トラフ地震対策として、当初の3階建から4階建に変更 ○耐震校舎 ○海岸に面しており、直接的な津波被害を受けると予想されているが、南舎及び中舎が防波堤となり、北舎を守ることになる。 ○敷地内の全てが浸水するため陸の孤島となる。 ○近くに、適切な避難場所なし。 ○避難所指定(無) ○避難訓練(年3回実施)
安芸桜ヶ丘高校	5m グラウンド・体育館1階及び南舎1階のみ浸水 ※体育館2階(フロアー)と中舎・北舎は浸水なし	95分	4階建	安芸市総合運動場(補助グラウンド)	20m	13,000m ²	200m	10分	指定なし	<ul style="list-style-type: none"> ○耐震校舎 ○海岸から民家やなはり線の線路が堤防になり、津波被害は少ないと予想されている。 ○敷地内の北側校舎や補助グラウンドに避難することで、被災後の支援も受けやすい。 ○避難所指定(無) ○避難訓練(年3回実施)

※1「避難指定」:「避難指定」としては、津波避難場所、避難所、福祉避難所がある。なお、「津波避難場所」とは、津波からの危険を回避するため、緊急的・一時的な避難を行う避難場所のことで、具体的には、高台、津波避難ビル、津波避難タワー、津波非難シェルターなどがある。

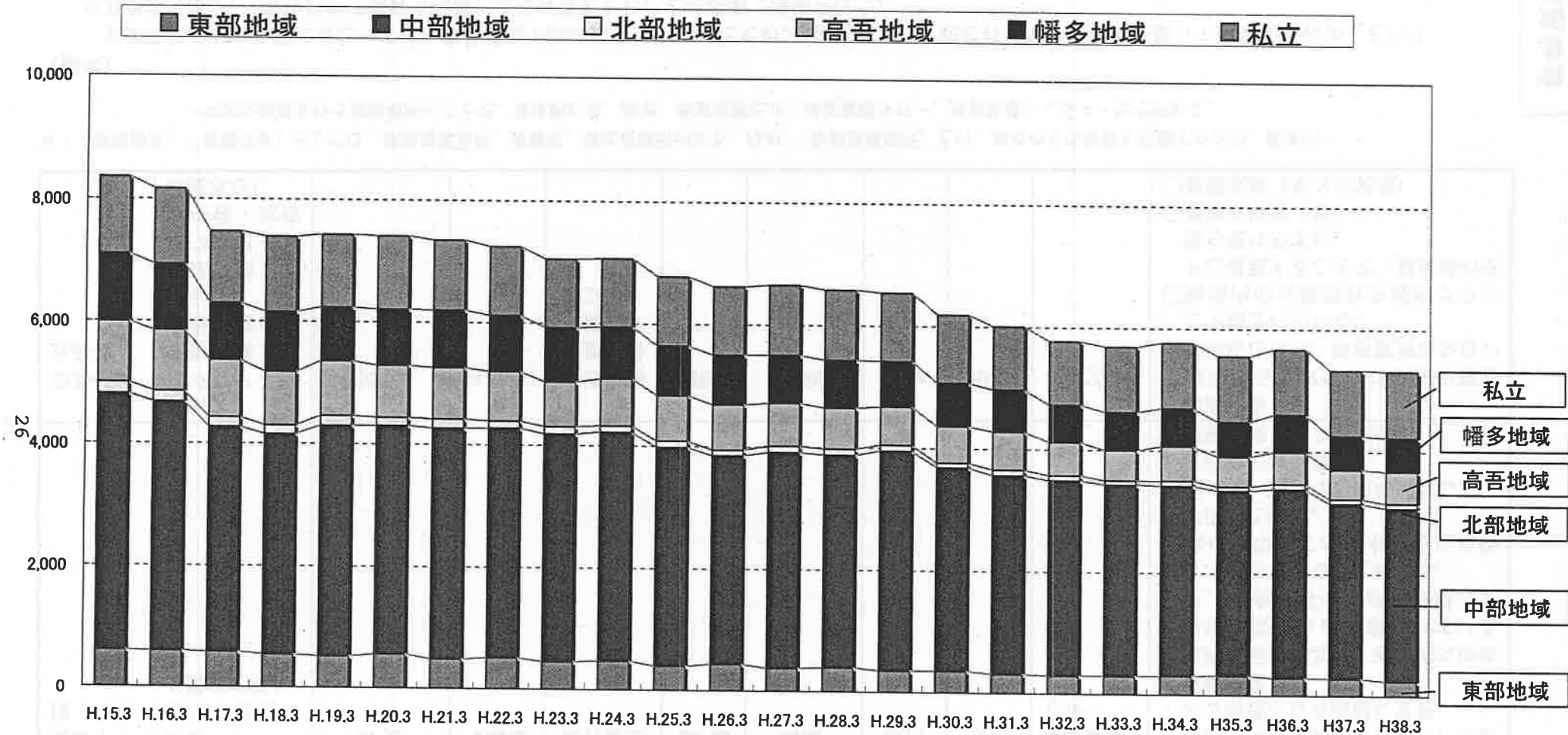
〔備考〕

安芸高校の南舎改築に当たっては、被災状況予測の公表後であったため、「津波被害が予想されるなかで税金を使って改築するのか」という意見があったが、「現状の中で被害を軽減できる対策をとる」との説明で改築を行う。

なお、改築に際しては、想定されるL2クラスへの耐震及び浸水深5mとなる津波に耐えられる構造計算を行っている(「(株)構造計画」が証明)。ただし、学校としては、より安全な北舎を避難場所としている。

地域別中学校卒業生数の推移 H15.3~H38.3 ただし、H30.3以降は推計

参考資料3



学区	H 15.3	H 16.3	H 17.3	H 18.3	H 19.3	H 20.3	H 21.3	H 22.3	H 23.3	H 24.3	H 25.3	H 26.3	H 27.3	H 28.3	H 29.3	H 30.3	H 31.3	H 32.3	H 33.3	H 34.3	H35.3	H36.3	H37.3	H38.3
東部地域	594	581	570	535	512	550	474	504	447	468	390	426	372	385	348	352	309	289	294	305	313	287	280	237
中部地域	4,208	4,096	3,698	3,614	3,782	3,748	3,787	3,766	3,736	3,750	3,587	3,423	3,539	3,489	3,604	3,334	3,257	3,204	3,137	3,114	3,036	3,094	2,862	2,837
北部地域	182	170	153	146	162	133	149	116	118	106	104	94	103	100	94	79	92	83	67	86	66	83	79	79
高吾地域	1,007	1,003	931	867	889	848	836	805	726	760	741	740	701	670	623	595	619	541	497	563	489	517	481	523
幡多地域	1,117	1,091	949	994	891	931	953	930	903	865	817	806	777	778	739	702	686	609	620	620	565	615	550	548
私立	1,252	1,227	1,180	1,239	1,200	1,204	1,158	1,136	1,127	1,123	1,142	1,137	1,166	1,163	1,135	1,130	1,049	1,042	1,070	1,075	1,074	1,065	1,067	1,083
合計	8,360	8,168	7,481	7,395	7,436	7,414	7,357	7,257	7,057	7,072	6,781	6,626	6,658	6,585	6,543	6,192	6,012	5,768	5,685	5,763	5,543	5,661	5,319	5,307
		H25.3卒業生比										▲ 155	▲ 123	▲ 196	▲ 238	▲ 589	▲ 769	▲ 1,013	▲ 1,096	▲ 1,018	▲ 1,238	▲ 1,120	▲ 1,462	▲ 1,474
		前年度比										▲ 155	32	▲ 73	▲ 42	▲ 351	▲ 180	▲ 244	▲ 83	78	▲ 220	118	▲ 342	▲ 12

再編振興計画での地域（現・旧市町村）別中学校卒業生数の推移（H30.3～H38.3は推計）

参考資料4

地域	高校	現市町村名	旧市町村名	H. 19. 3	H. 20. 3	H. 21. 3	H. 22. 3	H. 23. 3	H. 24. 3	H. 25. 3	H. 26. 3	H. 27. 3	H. 28. 3	H. 29. 3	増減	H. 30. 3	H. 31. 3	H. 32. 3	H. 33. 3	H. 34. 3	H. 35. 3	H. 36. 3	H. 37. 3	H. 38. 3	
東部地域	室戸	室戸市	室戸市	134	144	131	120	112	116	96	102	80	85	76	▲12	64	66	68	57	53	78	56	66	38	
		東洋町	東洋町	23	20	23	24	29	25	14	19	17	11	14	▲4	18	9	7	6	14	8	15	5	4	
		計		157	164	154	144	141	141	110	121	97	96	90	▲8	82	75	75	63	67	86	71	71	42	
	中芸	奈半利町	奈半利町	31	26	18	28	33	31	20	17	27	26	17	▲0	17	26	15	15	8	14	13	23	10	
		北川村	北川村	13	15	5	15	9	11	12	6	15	11	10	▲3	7	7	6	9	7	7	6	7	4	
		田野町	田野町	21	28	18	28	21	27	18	15	15	12	22	▲9	13	12	16	13	11	13	7	9	10	
		馬路村	馬路村	6	15	10	16	14	15	4	13	10	11	3	▲3	6	5	5	9	9	7	6	9	16	
		安田町	安田町	34	26	25	24	17	29	21	18	17	11	23	▲10	13	12	5	4	7	9	9	6	6	
	計		105	110	76	111	94	113	75	69	84	71	75	▲19	56	62	47	50	42	50	41	54	46		
	安芸 桜ヶ丘	安芸市	安芸市	212	216	199	199	175	177	168	200	158	173	146	▲37	183	144	139	146	159	158	131	129	127	
		芸西村	芸西村	38	60	45	50	37	37	37	36	33	45	37	▲6	31	28	28	35	37	19	44	26	22	
		計		250	276	244	249	212	214	205	236	191	218	183	▲31	214	172	167	181	196	177	175	155	149	
東部地域計				512	550	474	504	447	468	390	426	372	385	348	▲4	352	309	289	294	305	313	287	280	237	
H29との増減				164	202	126	156	99	120	42	78	24	37	0		4	▲39	▲59	▲54	▲43	▲35	▲61	▲68	▲111	
北部地域	嶺北	本山町	本山町	36	26	33	22	30	23	25	20	17	25	27	▲13	14	21	20	18	26	11	15	15	18	
		土佐町	土佐町	39	36	40	34	31	31	34	28	32	32	26	▲4	30	27	24	23	26	29	36	29	29	
		大川村	大川村	6	6	2	6	1	1	4	5	5	7	5	▲2	3	6	4	6	4	5	2	4	4	
		いの町	本川村	6	6	13	5	11	7	5	11	8	7	9	▲3	6	7	9	3	4	7	7	7	4	
		大豊町	大豊町	42	33	33	28	29	29	24	17	24	14	14	0	14	12	14	7	15	10	14	18	16	
	計		129	107	121	95	102	91	92	81	86	85	81	▲14	67	73	71	57	75	62	74	73	71		
	吾北	いの町	吾北村	33	26	28	21	16	15	12	13	17	15	13	▲1	12	19	12	10	11	4	9	6	8	
北部地域計				162	133	149	116	118	106	104	94	103	100	94	▲15	79	92	83	67	86	66	83	79	79	
H29との増減				68	39	55	22	24	12	10	0	9	6	0		▲15	▲2	▲11	▲27	▲8	▲28	▲11	▲15	▲15	
中部地域	城山	香南市	夜須町	夜須町	37	32	23	30	37	35	37	23	21	18	26	▲5	21	20	17	21	18	24	14	22	13
			香我美町	香我美町	55	41	56	38	48	58	58	63	55	70	61	▲2	63	50	60	37	39	44	27	35	41
			赤岡・吉川	赤岡・吉川	27	25	31	40	32	28	27	17	17	20	40	▲21	19	22	15	14	8	11	19	24	7
			野市町	野市町	147	176	178	162	179	168	186	140	189	167	181	▲22	159	164	157	154	167	143	162	134	159
	計		266	274	288	270	296	289	308	243	282	275	308	▲46	262	256	249	226	232	222	222	215	220		
	山田	香美市	土佐山田町	土佐山田町	160	138	147	157	138	180	123	132	149	143	140	▲19	121	129	133	128	139	146	143	138	127
			香北町	香北町	40	36	34	41	38	33	35	25	28	32	39	▲2	37	24	27	29	24	23	29	38	18
			物部村	物部村	14	12	15	18	10	22	7	11	11	6	13	▲7	6	10	8	8	9	7	8	8	6
	計		214	186	196	216	186	235	165	168	188	181	192	▲28	164	163	168	165	172	176	180	184	151		
	高知 伊野商 南国	高知市	春野町	春野町	120	101	116	118	115	98	115	117	96	120	120	▲15	105	103	106	102	85	91	72	78	73
			鏡村	鏡村	18	14	14	11	6	12	15	7	8	6	11	▲5	6	9	5	6	8	15	11	6	8
			土佐山村	土佐山村	13	9	7	10	7	8	8	2	10	7	13	▲5	18	20	14	29	29	32	53	58	60
			高知市	高知市	2,201	2,195	2,235	2,166	2,217	2,125	2,085	2,007	2,089	2,040	2,093	▲115	1,978	1,951	1,907	1,838	1,871	1,775	1,818	1,671	1,663
いの町		伊野町	228	239	189	203	176	198	146	141	133	144	150	▲29	121	124	116	123	108	124	104	83	102		
南国市	南国市	370	376	366	393	371	426	371	370	379	384	365	▲23	342	353	332	369	323	315	340	316	289			
計		2,950	2,934	2,927	2,901	2,892	2,867	2,740	2,644	2,715	2,701	2,752	▲182	2,570	2,560	2,480	2,467	2,424	2,352	2,398	2,212	2,195			
高岡・海津	土佐市	土佐市	土佐市	195	197	222	227	203	205	217	210	216	200	219	▲20	199	144	171	159	164	163	171	132	149	
		国立	国立	157	157	154	152	159	154	157	158	138	132	133	▲6	139	134	136	120	122	123	123	119	122	
中部地域計				3,782	3,748	3,787	3,766	3,736	3,750	3,587	3,423	3,539	3,489	3,604	▲270	3,334	3,257	3,204	3,137	3,114	3,036	3,094	2,862	2,837	
H29との増減				178	144	183	162	132	146	▲17	▲181	▲65	▲115	0		▲270	▲347	▲400	▲467	▲490	▲568	▲510	▲742	▲767	

平成27年度以降の入学数又は在籍数の実態（学校別一覧）

参考資料5

白抜き：最低規模を下回っている 黒塗り：定員に対して40人以上下回っている 斜線：定員の半分以下

学校名	学科(科)名	入学定員	最低規模(該当に●)			備考
			H27 入学者	H28 入学者	H29 入学者	
室戸	総合	80	63	50	42	
安芸	普通	120 (60)	83	83	95	H28年度までは160人
安芸桜ヶ丘	工業 (環建) [土木	20	9	6	9	
	工業 (環建) [建築	20	6	4	11	
	工業 (環工)	40	11	3	4	H30年度から募集停止
城山	商業 (情ビ)	40	21	14	14	
	普通	80	61	40	46	H29年度から単位制
山田	普通	160	110	121	128	
	商業 (商業)	40	29	26	30	
嶺北	普通	80	26	22	29	
	農業 (農総)	40	40	41	40	
高知農業	農業 (畜総)	40	32	28	36	
	農業 (森総)	40	22	24	21	
	農業 (環土)	40	27	31	35	
	農業 (食ビ)	40	35	37	33	
	農業 (生総)	40	40	32	40	
高知東工業	工業 (機械)	40	31	40	35	
	工業 (機械シ)	40	28	30	24	
	工業 (電子)	40	26	24	27	
	工業 (電機)	40	24	30	29	
岡豊	普通	240	240	240	239	
	普通 (芸術コース)	40	23	25	24	
高知東	普通 (体育コース)	40	33	40	40	
	総合	200	200	198	200	
高知南	看護 (看護)	30	24	24	30	
	普通	200 (100)	169	194	200	H35年度統合完了
高知工業	国際 (国際)	40 (20)	28	35	36	
	工業 (機械)	40	40	40	40	
高知工業	工業 (電気)	40	35	34	35	
	工業 (情技)	40	37	34	38	
	工業 (工化)	40	35	40	40	
	工業 (土木)	40	40	40	40	
	工業 (建築)	40	40	40	40	
	工業 (総デ)	40	36	37	39	
	高知追手前	普通	280	265	279	252
吾北	普通	40	23	23	19	
	普通	140	141	141	140	
高知丸の内	音楽 (音楽)	10	9	7	10	
高知小津	普通	30	20	21	13	
	理数 (理数)	240	226	241	240	
高知西	普通	40	24	29	40	
	外国語 (英語)	240	236	240	240	H35年度統合完了
伊野商業	商業 (キャリア)	40	40	41	40	
春野	総合	160	145	139	147	
高岡	普通	160	136	148	137	
高知海洋	水産 (海洋)	80	42	37	40	H29年度から単位制
	船舶職員養成課程	[10]	[4]	[4]	[2]	
須崎工業	工業 (機械系) [機械	20	31	40	12	
	工業 (機械系) [造船	20	25	17	13	
	工業 (電情系) [電気	20	22	19	9	
	工業 (電情系) [電情	20		10		
	工業 (シ工系) [機制	20	18	15	2	
工業 (シ工系) [住環	20		18			
須崎	普通	120	64	97	92	H31年度統合完了 ※H29年度から学科改編
佐川	普通	80	52	47	35	
窪川	普通	80	34	41	25	
樽原	普通	80	56	32	43	
四万十	普通	40	13	13	9	
	普通 (自環コース)	40	7	7	4	
大方	普通	80	38	32	32	H29年度から全日制

(注1) 安芸、高知南、中村の()内の数字は、併設中学からの最大進学者の生徒数。
 (注2) 高知海洋高校船舶職員養成課程の[]は内数
 (注3) 嶺北、樽原、四万十の合格者数は、連携型中高一貫教育校に係る特別選抜合格者数を含む。

学校名	学科(科)名	入学定員	最低規模(該当に●)			備考
			H27 入学者	H28 入学者	H29 入学者	
幡多農業	農業 (園シス)	40	24	38	40	
	農業 (アグリ)	40	27	28	30	
	農業 (グリーン)	40	24	22	17	
	農業 (コーディネート)	40	22	34	31	
中村	普通	200 (70)	184	161	200	
	西土佐 普通	40	22	11	9	
宿毛工業	工業 (機械) [機械	20	17	14	17	
	工業 (機械) [自転車	20	20	18	18	
	工業 (建設) [土木	20	19	20	19	
	工業 (建設) [建築	20	20	20	17	
	工業 (電気)	40	19	19	16	
工業 (情技)	40	27	40	33		
宿毛	総合	120	106	89	82	H28年度までは160人
清水	普通	80	51	47	47	
県立計		5090	4004	4032	4007	

(注4) 清水の合格者数は、連携型中高一貫教育校に係る特別選抜合格者数を含む。

学校名	学科(科)名	入学定員 [成人]	最低規模(該当に●)			備考
			H27 入学者	H28 入学者	H29 入学者	
中芸	普通(昼)	40	23	26	11	
高知北	普通(昼)	80	80	74	80	
合計		120 [0]	103	100	91	

学校名	学科(科)名	入学定員 [成人]	最低規模(該当に●)			備考
			H27 在籍者	H28 在籍者	H29 在籍者	
中芸	普通(夜)	40 [4]	8	17	18	
高知北	普通(夜)	40 [4]	134	124	101	
	看護(夜) (衛看) (技能連携)	40			4	H30年度から募集停止
合計		120 [8]	142	141	123	

(注1) 成人の[]は内数

学校名	学科(科)名	入学定員 [成人]	最低規模(該当に●)			備考
			H27 在籍者	H28 在籍者	H29 在籍者	
室戸	普通	40 [4]	11	11	17	
山田	普通	40 [4]	38	32	29	
高知東工業	工業 (機械)	40 [4]	33	40	34	
高知工業	工業 (機械)	40 [20]				
	工業 (電気)	40 [20]	87	81	70	
	工業 (土木)	40 [20]				
	工業 (建築)	40 [20]				
高岡	普通	40 [8]	27	42	44	
須崎	普通	40 [4]	25	23	17	H31年度統合完了
佐川	普通	40 [8]	25	21	22	
大方	普通	40 [4]	28	26	21	
宿毛	普通	40 [4]	38	32	25	
清水	普通	40 [4]	19	21	19	
県立計		520 [124]	331	329	298	

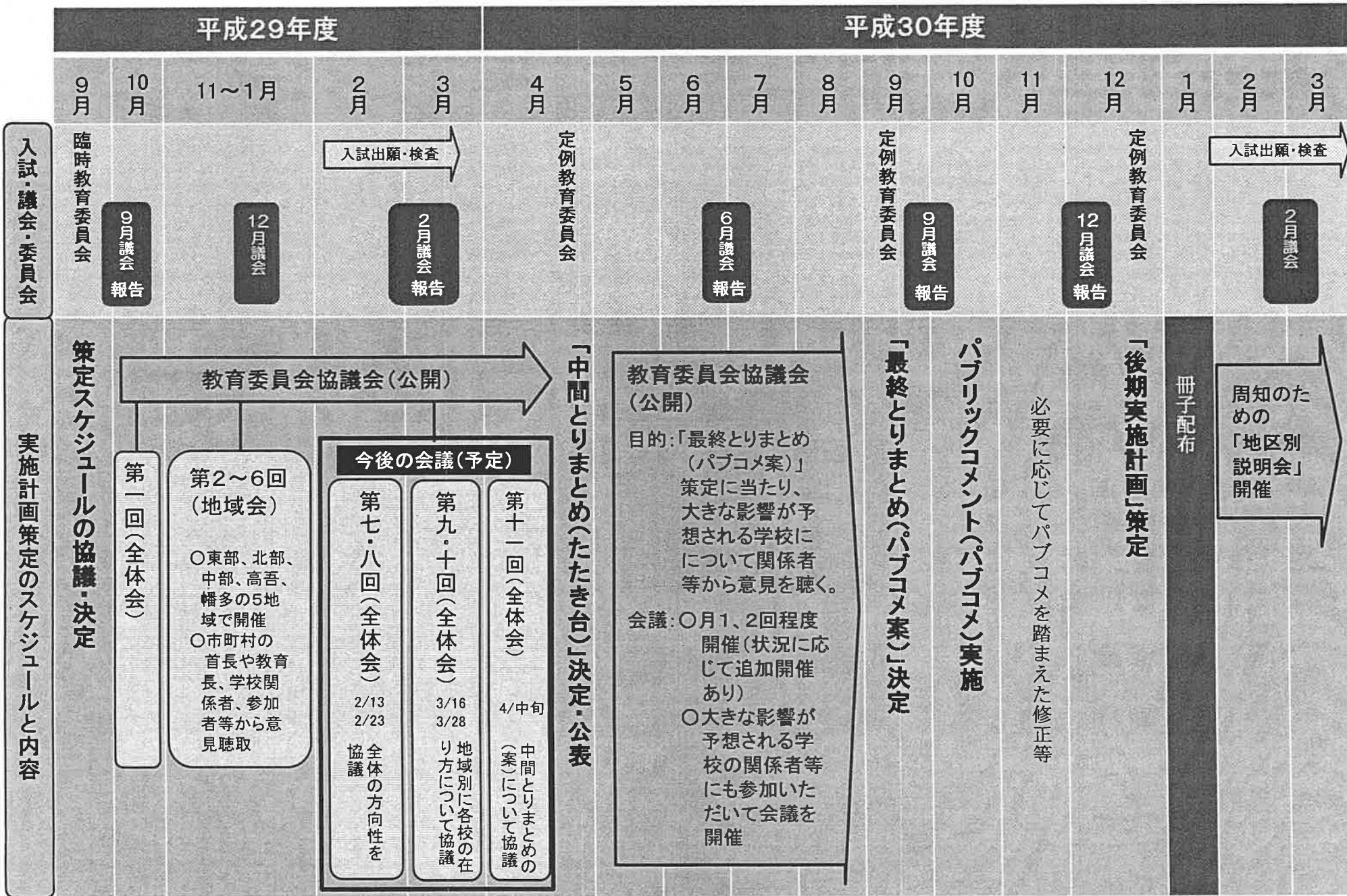
(注1) 成人の[]は内数

学校名	学科(科)名	最低規模(該当に●)			備考
		H27 在籍者	H28 在籍者	H29 在籍者	
高知北		427	412	438	
大方		78	78	64	
合計		505	490	502	

津波浸水域の県立高等学校一覧

	市町村名	学校名	10mメッシュ 最大クラス(L2)の津波 堤防なしの場合 (H24.12.26南海地震対策配布データ)		校舎 構造・階数	津波避難場所					備考 (避難所指定の有無など) ※避難所については、各市町村が指定して おり、想定は自然災害全般である。
			浸水深 (m)	30cm津波 到達時間(分)		避難場所	標高 (m)	広さ (㎡)	避難距離 (m)	避難時間 (分)	
1	安芸市	安芸	5m	57分	非木造 4階建	北舎屋上	23.5	840	—	—	避難所指定(無) 避難訓練(年3回実施) 南舎改築(H28.2完成)
2		安芸桜ヶ丘	5m	95分	非木造 4階建	安芸市総合運動場(補助グラウンド)	20	13000	200	10	避難所指定(無) 避難訓練(年3回実施)
3	香南市	城山	4m	39分	非木造 4階建	南舎屋上(地域住民は北舎屋上)	26	650	—	—	避難所指定(有) 避難訓練(年3回実施) 地域や中学校とも合同開催
4	高知市	高知東	2m	190分	非木造 4階建	校舎3・4階	9	1290	—	—	避難所指定(有) 避難訓練(年3回)
5		高知南	3m	36分	非木造 4階建	校舎4階及び屋上	12.5	2320	—	—	前期実施計画で統合
6		高知工業	3m	47分	非木造 4階建	校舎3・4階及び屋上	14	3110	—	—	避難所指定(有) 避難訓練(年3回実施) 筆山への避難は被災時は危険
7		高知追手前	2m	134分	非木造 4階建	高知城・新館4階等状況に応じて ※右データは高知城	44.4	2500	1000	15	避難所指定(有) 避難訓練(年3回実施)
8		高知丸の内	1m	191分	非木造 4階建	北舎2・3・4階	6.5	945	—	—	避難所指定(有) 避難訓練(年3回実施)
9		高知小津	1m	243分	非木造 6階建	校舎の4階以上の教室と6階の食堂(本館東)	15.1	1810	—	—	避難所指定(有) 避難訓練(年3回実施)
10	土佐市	高知海洋	8m	25分	非木造 5階建	近くの高台	40	400	500	8	避難所指定(有) 避難訓練(年3回実施) 1年生は4月にも実施 地域の避難場所指定(有) ただし、高校としてはより安全で広い避難 場所に避難
11	須崎市	須崎	7m	28分	非木造 4階建	学校の裏山にある避難道を上って、山頂にある須崎市斎場	83	—	300	15	前期実施計画で統合
12	宿毛市	宿毛	7m	35分	非木造 4階建	つつじ園	70	1000	1000	15	避難所指定(有) 避難訓練(年3回実施) 地域の避難場所指定(有) ただし、高校としてはより安全で広い避難 場所に避難
13	土佐清水市	清水	12m	11分	非木造 3階建	学校裏山または近くの高台 ※右データは高台	43	50	125	10	避難所指定(無) 避難訓練(年3回実施) 高台移転について協議中

県立高等学校再編振興計画 後期実施計画(H31～H35年度)策定スケジュール





高知県立嶺北高校と嶺北地域のつながりの深化・進化に向けて

子どもが「行きたい」、保護者が「行かせたい」、地域が「活かしたい」学校づくり

嶺北高校魅力化の会

会長 細川 博司

嶺北高校は嶺北地域の最高学府であり、嶺北地域にとってなくてはならない教育の場である。嶺北高校の生徒達は「自主活動」という独自の取り組みを継続しており、防犯・防災・環境保全など積極的に地域貢献を実践している。また農業コースなど嶺北地域の農業に積極的に関わりを持ち、商品開発もJAと連携して行っている。それらの取り組みを認められ「高知県地場産業大賞」において今年度「次世代賞」を受賞するなど地域との関わりが大きい高等学校である。また進学・就職も100%であり子どもたちの未来をつくる学校でもある。



しかし来年度の生徒の入学人数は減少傾向にあり、このままでは地域の衰退が進む可能性が否めない。その危機を脱するために嶺北地域四町村首長および学校長により「嶺北高校魅力化の会」を平成30年3月2日に発足した。「子どもが『行きたい』、保護者が『行かせたい』、地域が『活かしたい』学校づくり」を目的として推進協議会を設置し地域内外からの入学者を増やしていきたいと考えている。

上述の「自主活動」「農業コース・商業コース」「進学・就職」に加えて、早明浦ダム湖の地域特性を活かした「カヌー一部強化」を主軸に新しい魅力として地域と連携した『学校づくり』を推進していきたい。

以上を踏まえて、嶺北高校には以下のことを意識した学校づくりを行って頂きたいと考えている。

1) 本当にやりたいことに取り組める「自主活動」推進

文部科学省は今後「主体的・対話的で深い学び」を進めていく。嶺北高校は先駆けて「自主活動」を行っているが、それが地域貢献という文脈だけでなく「プロジェクト型学習」とし深い学びにつながるようにしたい。

2) 地域連携した農商業を実学とする「農業コース・商業コース」の授業

農業コースが開発した商品を、商業コースが販売することで実学的な学びに結びつけたい。

3) 行きたいところに行ける幅広い「進学・就職」(ICTの積極活用)

生徒たちの多様な進学先を保障するために、地域住民が生徒の進路にかかわる開かれた学校づくりをしたい。また学力向上や地域外・国外との交流機会をつくるために ICT の積極活用を行いたい。

4) 全国レベルの「カヌー部」を掲げる強豪校化

嶺北地域では今後カヌーのメッカとした地域づくりを推進する。そのためハンガリー人で世界チャンピオンのラヨシュ・ジョコシュ氏を招聘し、社会体育として「カヌーアカデミー」を創設する。嶺北高校のカヌー部を強豪にしていくために、嶺北高校のカヌー部とカヌーアカデミーの密な連携をはかりたい。



平成30年度 A日程等合格者等の状況(学校別)

No.1 全日制

(平成30年 3月14日)

学校名	学科(科)名	入学定員	第1志望者数		受検者数		合格者数		競争率
			学校計		学校計		学校計		
室戸	総合	80	24	24	24	19			0.30
安芸	普通	120 (57)	51	51	51	51	51	51	0.89
安芸桜ヶ丘	工業(環建)	20	5		5		3		0.25
	工業(土木建築)	20	10		10		8		0.50
	商業(情ビ)	40	21	36	21	36	20	31	0.53
城山	普通	80	19	19	17	17	14	14	0.21
山田	普通	160	90		88		71		0.55
	商業(商業)	40	26	116	26	114	21	92	0.65
嶺北	普通	80	1注4	1	1	1	1	1	0.01
高知農業	農業(農総)	40	47		46		40		1.15
	農業(畜総)	40	41		41		37		1.03
	農業(森総)	40	21		21		15		0.53
	農業(環土)	40	35		34		28		0.85
	農業(食ビ)	40	43		43		40		1.08
	農業(生総)	40	47	234	47	232	40	200	1.18
高知東工業	工業(機械)	40	35		35		31		0.88
	工業(機械シス)	40	23		23		18		0.58
	工業(電子)	40	23		22		19		0.55
	工業(電機)	40	29	110	29	109	28	96	0.73
岡豊	普通	240	258		257		240		1.07
	普通(芸術コース)	40	26		26		24		0.65
	普通(体育コース)	40	37	321	37	320	40	304	0.93
高知東	総合	200	211		210		200		1.05
	看護(看護)	30	34	245	34	244	30	230	1.13
高知南	普通	200 (116)	101		100		90		0.86
	国際(国際)	40 (27)	17	118	17	117	15	105	0.63
高知工業	工業(機械)	40	36		35		34		0.88
	工業(電気)	40	38		37		35		0.93
	工業(情技)	40	37		36		35		0.90
	工業(工化)	40	36		36		37		0.90
	工業(土木)	40	48		46		40		1.15
	工業(建築)	40	44		43		40		1.08
	工業(総デ)	40	38	277	38	271	35	256	0.95
高知追手前	普通	280	290	290	289	289	281	281	1.03
	吾北普通	40	8	8	8	8	6	6	0.20
高知丸の内	普通	140	189		189		140		1.35
	音楽(音楽)	30	16	216	15	215	20	170	0.50
高知小津	普通	240	243		239		238		1.00
	理数(理数)	40	27	270	25	264	25	263	0.63
高知西	普通	240	258		255		240		1.06
	外国語(英語)	40	37	295	36	291	40	280	0.90
伊野商業	商業(キャリア)	160	118	118	117	117	100	100	0.73
春野	総合	160	127	127	126	126	113	113	0.79
高岡	普通	80	22	22	22	22	19	19	0.28
高知海洋	水産(海洋)	80	34	34	33	33	27	27	0.41
	船舶職員養成課程	[10]	[7]		[7]		[3]		0.70
須崎工業	工業(機械系)	20	21		21		20		1.05
	工業(造船)	20	16		16		17		0.80
	工業(電情系)	20	9		9		9		0.45
	工業(電情)	20	14		14		14		0.70
	工業(シ工系)	20	17		17		17		0.85
	工業(住環)	20	22	99	22	99	20	97	1.10
須崎	普通	120	66	66	66	66	64	64	0.55
佐川	普通	80	40	40	40	40	38	38	0.50
窪川	普通	80	24	24	24	24	22	22	0.30
樽原	普通	80	11注4	11	11	11	9	9	0.14
四万十	普通	40	1注4		1		0		0.03
	普通(自環コース)	40	2注4	3	2	3	2	2	0.05

- (注1) 安芸、高知南、中村の()内の数字は、A日程の募集定員を示したものである。
(注2) 高知海洋高校船舶職員養成課程の[]は内数
(注3) 競争率=A日程受検者数÷入学定員(募集定員)
(注4) 嶺北、樽原、四万十、清水は、A日程と同時に連携型中高一貫教育校に係る特別選抜を実施する。

No.2 全日制

学校名	学科(科)名	入学定員	第1志望者数		受検者数		合格者数		競争率
			学校計		学校計		学校計		
大方	普通	80	26	26	25	25	23	23	0.31
幡多農業	農業(園シス)	40	34		34		36		0.85
	農業(アグリ)	40	25		25		26		0.63
	農業(グリーン)	40	24		24		23		0.60
	農業(コーディネート)	40	44	127	44	127	40	125	1.10
中村	普通	200 (132)	90	90	90	90	90	90	0.68
	西土佐普通	40	12	12	12	12	9	9	0.30
宿毛工業	工業(機械)	20	12		12		12		0.60
	工業(自動車)	20	14		14		14		0.70
	工業(建設)	20	20		20		20		1.00
	工業(土木建築)	20	20		20		20		1.00
	工業(電気)	40	16		16		16		0.40
	工業(情技)	40	40	122	40	122	39	121	1.00
宿毛	総合	120	83	83	83	83	79	79	0.69
清水	普通	80	2注4	2	2	2	1	1	0.03
	県立計	5050 (4822)	3637		3605		3338		0.75

高知商業	商業(総合マ)	140	171		170		140		1.21
	商業(社会マ)	70	81		81		70		1.16
	商業(情報マ)	35	40		40		35		1.14
	商業(スポマ)	35	37	329	37	328	35	280	1.06
	市立計	280	329		328		280		1.17

合計		5330 (5102)	3966		3933		3618		0.77
----	--	-------------	------	--	------	--	------	--	------

多部制単位制

学校名	学科(科)名	入学定員	第1志望者数		受検者数		合格者数		競争率
			学校計		学校計		学校計		
中芸	普通(昼)	40	19	19	19	19	16	16	0.48
高知北	普通(昼)	80	82	82	80	80	76	76	1.00
	合計	120	101		99		92		0.83

(注1) 競争率=A日程受検者数÷入学定員

平成30年度 連携型中高一貫教育校に係る特別選抜合格者等の状況(学校別)

学校名	学科(科)名	入学定員	志願者数		受検者数		合格者数		競争率
			学校計		学校計		学校計		
嶺北	普通	80	15	15	15	15	15	15	0.19
樽原	普通	80	30	30	30	30	30	30	0.38
四万十	普通	40	16		16		15		0.40
	普通(自環コース)	40	0	16	0	16	1	16	0.00
清水	普通	80	31	31	31	31	28	28	0.39
	合計	320	92		92		89		0.29

- (注1) 連携型中高一貫教育校に係る特別選抜の募集定員は、入学定員内とし、特に定めない。
(注2) 競争率=受検者数÷入学定員